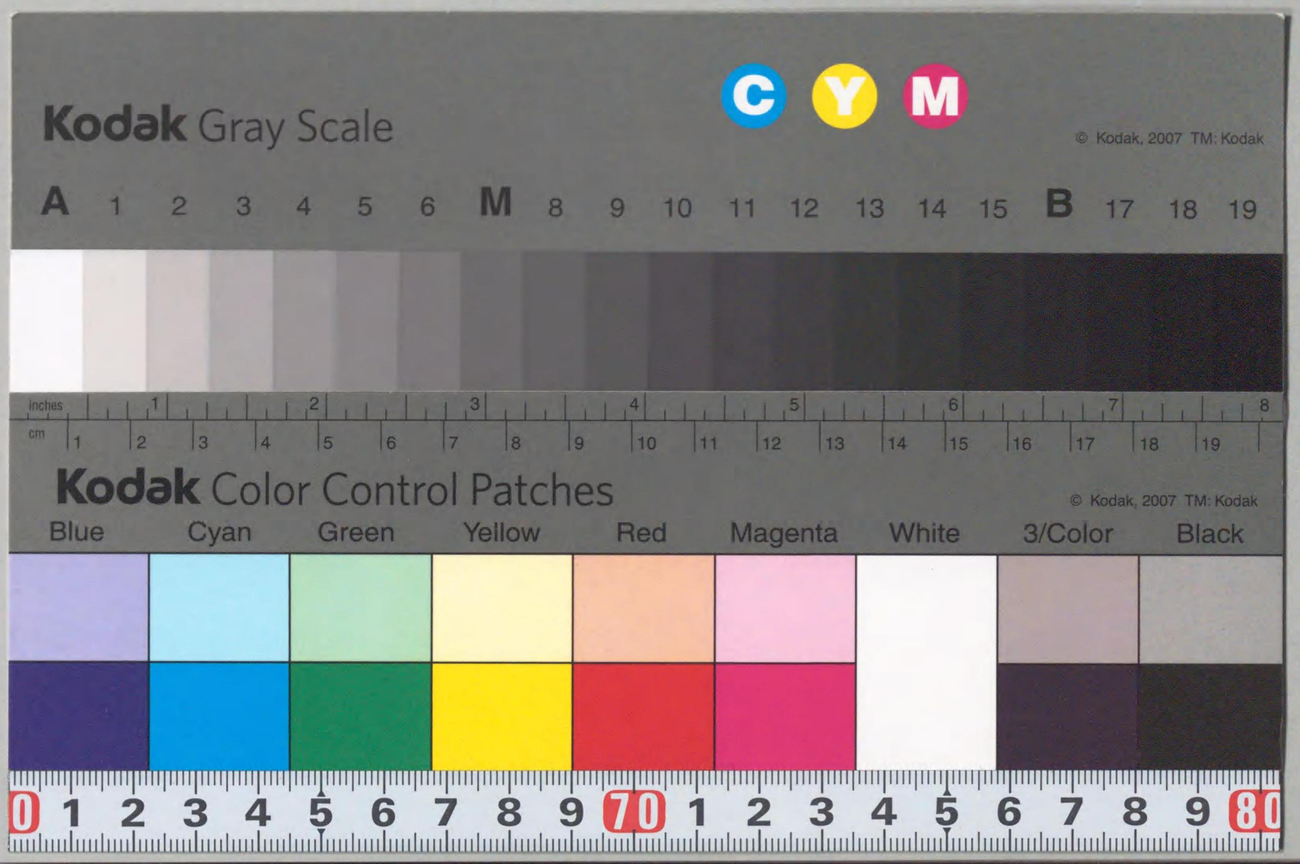

Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

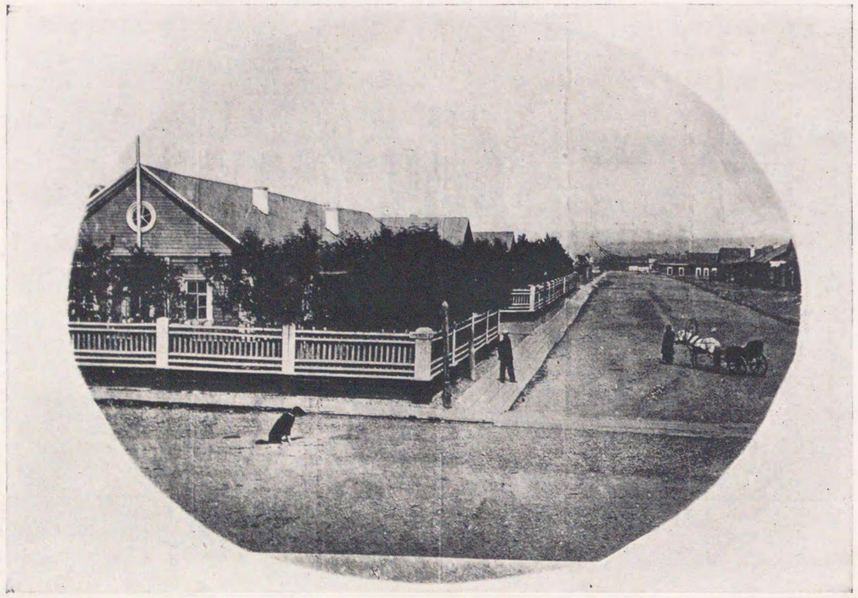
292.73
E76s

西伯利亜日記（寫）

卷之貳

東京都千代田区丸ノ内二ノ八伸十二号館六階四二室
芳澤中國記念館
電話（28）四〇〇〇番

街　　市　　鹽　　浦



リ通「ニコラエフスコ」ニ於ケル「ペトロパーウロスカヤ」通リ

292.93
E76A
(1)

国立国会
35.10.31
図書館

533177

十三日（九月）

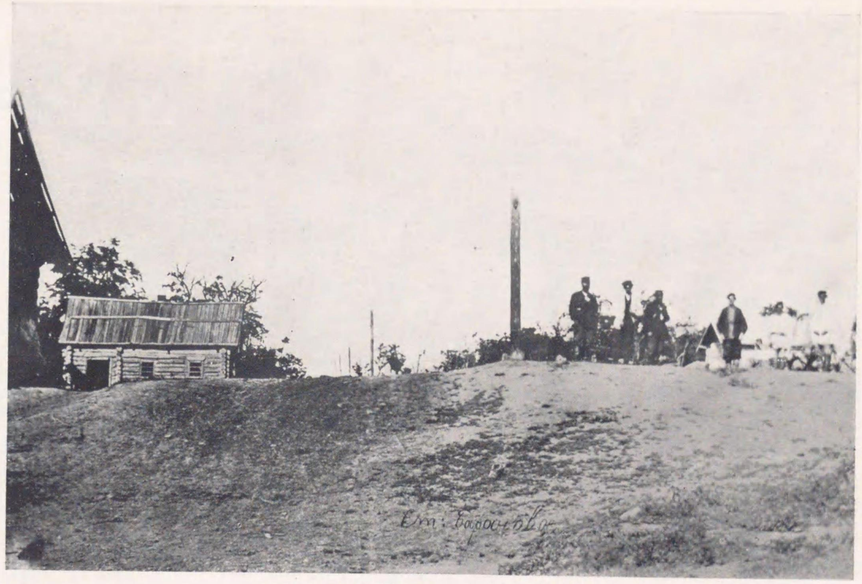
朝来天気未晴細雨霏々昨夜酒屋ニテ「マデラ」ト麦酒等買入麦酒ハ「インデヤンペール」エールニシテ黒龍江ノ経ヲ来リシモノニテ價ハ一「ルーブル」八十「コペーキ」ナリ

荷物積入ノ前ニ不残船ヘ送ルヲ目方ヲ試ムルニ一「プード」ニ付一「ルーブル」五十「コペーキ」荷物ハ一「プード」ニ付一「ルーブル」五十「コペーキ」ナリ是レ「ポスト、ポート」ニテ普通皆目方ニヨリテ運賃ヲ払フベキナリ

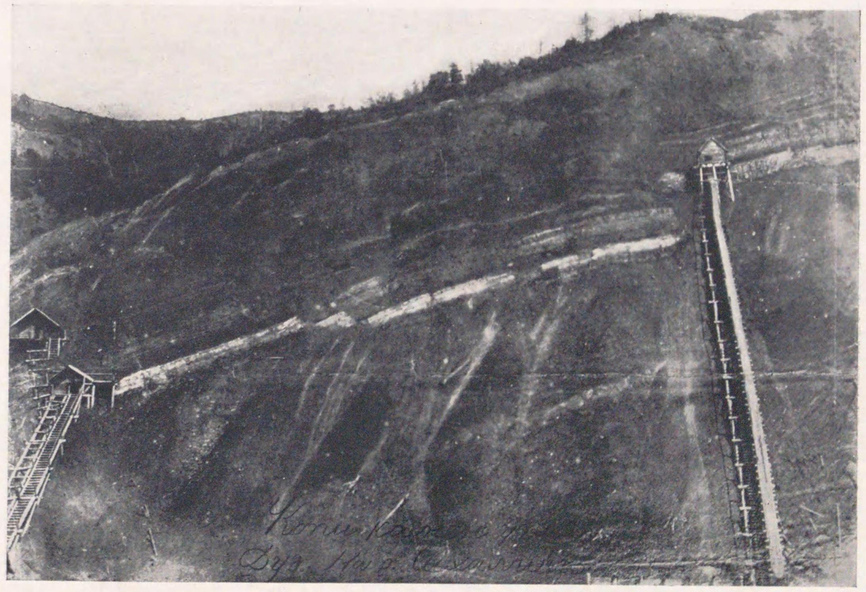
船賃ハ上等六十「ルーブル」五十「コペーキ」中等三十「ルーブル」五十「コペーキ」ナリ是レ「ポスト、ポート」ニテ普通自由ニシテ其餘ハ一「プード」毎ニ二「ルーブル」ニ「コペーキ」ナリ

荷物船ハ逆潮ニテモ一「プード」ニ付一「ルーブル」少許ニ過キス是荷物ヲ汽船ニ引行クナリ

十一時館主ハ午食ヲ設ケ呉ルヲ以テ別ヲ告ケントセシニ丁度時ニ「ウスカヲ」村ニ泊スル「シルカ」ノ右岸ニテ是ヨリ三十「ウヨルスト」許ノ処ニ帝家ニ属スル沙金場ヲ開キ罪人七千人モ働クト云フ独乙ノ商人ヲ二人ニ語ヲ云フ「ポート」ノ乗人モ此中ニアリト又「カピテン」云フ此沙金場ハ二十年余前ヨリスト



（ノ馬）驛「フノラバ」



坑炭石ルケ於ニ太樺

途中汽船ニ度々来ルヲ見ルハ「ニコアメリカ」ノ「シスチマ」ナル外輪船ナリ
「ウスカ」村ニ電信局アルヲ以テ左ノ電信ヲ金八ニ遣セリ

Enomoto Kimpati Taimushō Tokio
I left for Vladivostock to-day. Middle October will be
home. Thank Kuroda. All well.
Enomoto

別帳ニ續ク（以下再ビ大型帳ニ記載）

九月十三日續キ

甲必丹云ク「ストレチエンスク」ヨリ「ハバロフカ」迄ハ航路貳千零拾六「ウルスト」ニシテ十日ニテ充分到着スヘシ又「ストレチエンスク」ヨリ「ブラゴウエスチンスク」迄ハ航路壱千弐百「ウルスト」ナリ逆流ノ時ハ「ハバロフカ」ヨリ「ストレチエンスク」迄ハ十六日ヲ要スト我等ノ乗組シ汽船ハ長サ壱百三十「フート」幅十六「フート」四十馬力（「ノミナル」）ノ高圧力ナリ

別帳ニ記セシ如ク我等「ウスカ」村ニ泊舟シテ電信ヲ英文ニテ日本東京迄出ダセシニ晩食中住者帰来云ク魯文ニアラザレバ通ゼズト依是「アルバデン」見合スルニ決セリ

別帳ニ記セシ當駅沙金場ノ模様ヲ正ス一左ノ如シ

「ウスカ」駅ノ附近ニ沙金場四ヶ所アリ共ニ帝家ノ所有ニシテ之ヲ洗フ機械ハ六個ニシテ共ニ水車ヲ用ユ此水ハ甚ダ少キヲ以テ往々ニ休業スル時アリ其一ヶ所ハ駅ヲ距ル十五「ウルスト」ニ在リ其二ハ十九「ウルスト」、其三ハ二十四「ウルスト」、其四ハ二十九「ウルスト」ニ処ニテリ人夫ハ平人

八百人罪人六百人許り四ヶ所ニテ一ヶ年採ル処ノ金ハ約貳拾五「プード」タリ砂中含金平均百「プード」ニ付キ金一「ゾロトニク」タリト云フ此沙金場ハ世五年前ヨリ開採スル所ニ係ルト云フ

「ウスカ」村迄ハ罪人ヲ流ス処ニテ五ヶ所ノ獄アリ而テ「ウスカル」駅ニモ一個アリ沙金場ノ一役云ク「アルグン」河（支那所謂庫倫河）ニハ沙金場甚タ多シ左岸ハ魯領ナルヲ以テ開採ニ従事スト雖支那領（即チ右岸）ノ下ハ下手スル者ナシ故ヲ以テ魯人往々密カニ支那領ニ入リ合金ニヲ穿チ木皿ヲ以テ小洗スル者アリ云々

「ウスカ」駅附近ニアル罪人ノ数ハ大約并テ三千人ナリト云フ

○

艀頭云ク「アムール」汽船社ハ千八百七十一年ヨリスヽテ「ウスリ」河ノ汽船モ同社ノ所有ナリ汽船ヲ有スル現ニ并セテ十六艘タリ七十一年前ハ政府ニテ汽船十艘ヲ有シ航河セシガ入費過大ナルヲ以テ同社ト約ヲ立テ船ヲ譲リ且ツ左ノ掟ニ従テ保護金ヲ与フルコトナレリ

「ストレチェンスク」ヨリ「ニコライエフスク」迄順流十五日ヲ以テ限日トス着船モシ此ノ日限ニ後ル、時ハ毎日貳百「ルーブル」ノ罰金アリ「ストレチェンスク」ヨリ「ハバロフカ」迄ハ日数九日（順流）ナリ

政府ヨリ毎年「アムール」社ヘ遣ス保護金ハ二十五萬「ルーブル」ナリ而シテ同社ハ毎年政府ヨリ物品参拾五千「プード」ヲ無賃ニテ運輸セザルベカラズ、モシ年ニ寄テハ荷物ノ量ヒ数ニ至テ保護金ノ下ル方ハ減スルコトナシ

郵便ハ一「ウルスト」ニ付二「ルーブル」十五「コペーキ」ヲ政府ヨリ社ニ拂フナリ

兵卒ヲ乗船セシル時ハ政府ヨリ同社ヘ通常ノ船賃ノ三割ヲ與フ

○、我邦ノ某組ニ汽船ノ艀頭ハ年給参千「ルーブル」ヲ得、此汽船ハ「ハンビュルグ」ヨリ機械並ニ船材ノ大部分ヲ取寄セ六年前「アムール」ニテ組立テタルモノニシテ價ハ約四万「ルーブル」費ヘタリト云フ船ノ長サ百三十「フート」、幅十六「フート」、食水弐「フート」止ニシテ馬力（ハミ

九里四十丁、而シテ「シルカ」及黒龍江ヲ下ル時ハ其疾サ一時間約二十「ウョルスト」逆流ニハ一時間約八「ウョルスト」ヨリ十「ウョルスト」タリト云フ順流ニ如斯ノ遅キハ畢竟河流ノ疾キト屈曲多キヲ以テ殊更ニ陰行スルニ基セリ

○予船艫ニ立テ「シルカ」河流ヲ諦視スルニ河幅「アムール」ニ達スル迄大抵到処我五十間ヨリ七十間ニ過ギズ流レハ「ヲワ」河位ノニ疾サナリ澪筋ノ深サハ五尺ヨリ八九尺迄ニテ此「シルカ」河中ハ水夫ノ船傍ニ立テル水ノ深サヲ報スル其「デプロード」ハ長サ十尺ノ棒ニ毎尺ノ印ヲ付ケ棒ノ先ヘ綱ヲ結付タルモノナリ但シ他ノ一方ニハ鉛ヲ付ケタルベキヲ論ナシ

○「シルカ」及黒龍江ヲ航スル汽船ハ外ニ十六艘アリ共ニ各個商人ノ私有ニ係ル故ニ目下「アムール」ヲ航スル汽船ハ「アムール」社ノ汽船ヲ并セテ都合三十二艘ナリト云フ但シ「アムール」社ノ船ハ毎暦ノ一日ト十五日ニ纜ヲ解クルヲ以テ定日トス

○予「シルカ」河ノ黒龍江ニ達スル迄ヲ見ルニ屈曲甚ダ多ク一道ノ澪筋太抵僅ニ「ヲョルスト」以上ニ出ヅヲ見ルニ「ヲョルスト」以上ニ長サヲ見ラレサル之ヲ船腹ニ乱スニ断ル長サハ「シルカ」中ニ無之黒龍江タリトモ長サ十「ウルスト」ニ至ルモノハ絶無而僅有モノナリト咎ヘタリ

○艪ハ通常魯国ノ航河船皆同シ

十四日 竟日雨天時々薄陰トナルアリシ

拂暁四時頃ヨリ機械ノ鳴ル声ヲ聞キシガ稍久シクシテ止ム六時半ニ起キタル件ノ船再ビ進行中ナリシ之ヲ船艫ニ問フニ小駅ニ於テ薪ヲ積ム故ナリト答ヘタリ朝九時半頃右岸ノ小駅ニ船渠ヲ有スル彦メ薬庚シテ連レ来リシ故ナリト云ヘリ予ニ付添ヒ来リシ「イスプラウニク」ハ登陸セリ渠ハ「アルバデン」迄予ヲ送ル約ナリシヲ予許退シタルニヨレリ氏ノ村ヨリ「ストレチエンスク」迄ハ車路ナシ故ニ馬上ヲ細道ヲ従来スルナリト

電信局ノ役人正服シテ予ヲ訪ヒ用向ノ有無ヲ問フ予行ヲ一見スルニ「モルセ」奏仕掛一座アリタリ

朝七時ヲ九時頃迄寒暖計列氏五度半ニ午七度許ニテ穏キ夫ヨリ夕五六時再ビ
五度半ニ下リ風ナキヲ以テ格別寒カラズ晨日河流並ニ川幅両岸ノ様子皆替ル
コトナク但シ左岸ニ折節農家ヲ見ル右岸ニハ甚タ稀ナリ岸ノ高サハ左右互ニ交
換シテ高低ヲ為シ而シテ共ニ七八丈ヨリ十五丈ヲ過クルモノナシ山上皆白樺青松
ノミナリ岸ハ「フルハルデケレイ」ノ岩ナルヲ以テ河中ニ沈木ナシ之ヲ甲必丹ニ問フニ「シルカ」モ
黒龍江モ共ニ深筋ニテ多セレコナレト実ニ一見シテ其ノ然ルヘキヲ知ルニ足リ是
一大幸河ト称スヘシ本日一ノ湾所ヲ経過ス水ノ深サ五尺半ヨリ六尺ニ過ギズ甲必丹云ク潤
水ノ件ハ三尺ニ至ルト夕七時一小村ノ前ニ泊舟ス

十五日

本日ハ早朝黒龍江ニ入ル由ナルヲ以テ朝六時ヨリ起キ甲板上ニ立テリ七時ニ黒龍江ニ
入ル黒龍江ハ即チ「シルカ」河ノ下部ヲ為スモノニテ別河ニアラズ尺ニ「シルカ」河ニ「アルグン」
ノ落ツル処ヨリシテ「アムール」ト名ヲ負フトリ甲必丹云ク「アムール」トハ蒙古語「メンドモール」ヨリ
分レ来リシモノニテ「シルカ」ト「アルグン」ニ河出逢ヒ即機見ヨト云フ義ニ取リシトリ云々是ハ言ヒ
得人ノ事ニテ甲板丹ノ私考ニハアラザルコト明リ、但シ「アルグン」河落合ノ処ハ「シルカ」河
ノ幅是迄ニ二倍ス「アルグン」河ノ「デルタ」山ノ左岸(即鳥領)ニ小屋五六軒アリ之ヲ
「ウストストレルカ」村ト云フ少シク進デ「シルカ」河ノ右岸ハ「パロフカ」村アリ此ノ村ヨリシテ
「シルカ」ヲ「アムール」ト名付ク「アムール」河ノ左岸ハ魯領ニテ左岸ハ魯
領ナリ是レ「ムラビヨフ」氏「アイグン」城ノ釣ヲ基クトイヘドモ「メンドモール」出テタルニハアラザルベシ
(Amur ヨリ出ル語ヨリ出テタルニハアラザルベシ)
備我カ船モ黒龍江ニ入リタレハ何トナク家郷ヘ一歩近ヅキシ心地ヤリ其ノ年来黒龍
江ノ名ヲ聞キテ久シカリシガ今日自ラ流ニ順テ下リ宿志ヲ遂ルヲ得タレバ予カ悦ビ知
ルベシ河幅ハ「シルカ」河ヨリモ殆ト二倍シ且ツ深サモ彼ヨリ深ク屈曲モ彼カ如ク短カ
ラズ只今迄見シ河ニテハ我一里餘ノ深筋アリタリ両岸共ニ地質ハ是迄ト更ニ替ラズ
樹木モ白樺ト青松及樅等ヨリ両岸共ニ巨大ノモノナシ白樺
ノ葉既ニ黄色ニ変ゼシヲ以テ時候ノ既ニ寒ニ近ヅキシヲ見ルベシ白樺ノ小樹ハ美

ん紅葉ノ為ニ我邦ノ楓葉ニ似タリ支那鎮ノ方ニ人ノ三四人岸ニ沿フテ歩スルヲ見ル是ヲ恐ラクハ満洲人ナラントテ眼鏡ヲ以テ之ヲ諦視スレハ魯人農民タリシ又支那鎮ノ方ニ林草ノ乾シタルトキ小家(無人)ナドアルヲ許キ之ヲ問フニ魯民ハ支那鎮ヘ往々麥ナドヲ蒔ク者モアル由支那鎮ハ「サガリン」迄ハ村落ナシト云フ黒龍江ノ如キ良河ヲ葉テ魯ニ取ラレシモ當ニ撮ケズ且ツ此ノ国境ヲ支那彼人見廻ルナド絶テ無キ由左モアルベシ予思フニ境圖サヘモ有ルカ無キカ知ルベカラズ素ノ毒ナル者ナリ然レ共黒龍江魯ノ有トナリタルニ付キ我茅及開拓世界一般ニ電信並ニ汽船便ヲ得時日ヲ刻シテ通過スル(ママ)ヲ待ルニ至リシナリ若シ依然支那鎮タラシメバ所謂天物ヲ暴テ殄スルモノニテ世界一般幸福ノ用ヲ為サルベキ言フヲ待タズ支那所謂楚材晋用トハ此ヲ謂也是ヲ以テ推セハ別帳ヲ速ベシ如ク「チルチンスク」鎮ノ「ツルハイツイ」ヨリ「ブラゴウエチンスク」迄東方一直線ノ地ヲ程遠カラズシテ魯鎮トナルベキヲ殆ド疑ナシ然ル時ハ我日本ノ魯トノ電信ノ便ヨリシテ「インデレクト」ニ貿易ノ利迄ヲ起スノ便ヲ興ツベシ支那ノ古聖孔夫子ハ二千五百年前枝木ハ彫スベカラズト云置キタリ夫子自ラ自国ノ(ママ)未ヲ言前テヒコノ地下ニテ不本意タルベシ

「ストレチエンスク」ヨリ「ハフロフカ」駅即チ黒龍江迄ハ三百五十八「ウルスト」タリ黒龍江ニ入リテヨリ三十八「ウルスト」ニシテ左岸ニ一河流レ入ルヲ尼猿(アマザル)河ト云フ○「アルグン」河ノ黒龍江ニ入ル処ハ現下水甚タ少ク黒龍江水却テ逆流入スル位ナリ故ニ汽船ナド纔ニ入スルヲ得ズ

午後六時「ジエレンデンスク」ト云フ処ニ舶ヲ停ム是処ハ上「アムール」(ウルフニ)社沙金場ノ役所アル処ニシテ家屋ハ木製ナレ共凡テ揚リ場及道傍モ木ヲ敷キ甚タ華美ナル「アムール」中第一ナリト云フ「アムール」河岸ニ斯ル場所アリトハ真ニ意外ナリ家屋ハ五六軒ニ過キサレ共道幅モ正シク甚タ隘中ニ開化世界ヲ現出セシモノナリ此処ヨリ壱百八「ウルスト」奥ニ左社ノ沙金場アリ即チ予カ所持ノ「アムール」地方沙金場ノ書ニ載スル一所ナリ仝社ハ此処ノ外ニ尚ホ

明日経過スベキ「チエルナエリ」ト云フ駅ノ奥ニモ沙金場ヲ有セリ是ハ昨年ヨリ開採セシ
モノニテ昨年ハ金十八「プード」ヲ得タリ本年ハ二十「プード」ヲ得ル見込ノ由備ニ会社
ノ「ジエレンヂンスク」村ノ奥ニ有スル沙金場ハ「ジエレンド」ト云フ小河（即チ「ゼヤ」河ニ
入ル一小河ナリ）ニアリ故ヲ以テ此処ヲ「ジエレンヂンスク」ト名付レ也予同行ノ独乙人
同道ヨリ登陸セシニ同氏ノ旧相識ナル英ノ「インシエニール」ニ逢フ乃チ相伴テ上「アム
ール」社ノ役所ニ至リ「メチーヂエ」（魯人ナリ）ニ面会シ沙金場ノ図並ニ金粒ヲ一見
セリ粒ハ細キ方ナリ故ニ良好ナリトス大粒ナル者ハ礦夫ニ盗マレ又ハ「クワルツ」ヲ含
ムノ害アリ之ヲ「マチージエル」ニ問フニ曰ク会社ノ「ジエレンド」河沙金場ハ「ツルフ」ノ厚サ
平均三「アルシン」、含金土ノ厚サ二「アルシン」ニシテ金ノ分量ハ百「プード」ノ含金土
ニ平均一「ゾロトニク」半ナリト（但シ予カ所持ノ書ニ載スル三「ゾロトニク」餘云々ハ過大
ノ疑ナキ能ハス且ツ其書中ニ足ラサル表ヲ補ハン為メ左ノ数ヲ聞得タリ

千八百七十六年金ノ出高　壱百四十一「プード」二十六「フント」

同　七十七年ハ　壱百三拾七「プード」二十六「フント」

「インシエニウル」云ク会社ハ沙金場六ケ所ヲ有セリ共ニ水極少ナキヲ以テ甚タ蒸氣機
関ヲ用ユ然レモ全ク水涸レノ時ハ休業セサル可ラサルヲ以テ此ノ時ハ「トルフ」ヲ取除クニ
従事セシムト云ニ又云ク同社ハ沙金場ノ馬ヲ飼フ為メ毎年十二万「プード」ノ「オーツ」
ヲ「ブラゴウエスチンスク」ヨリ取寄スルト又云フ同処ノ沙金場ハ五月十五日（魯暦）
ヨリ始メ洗金ハ九月十五日ニ終ルト又云会社ハ金及他ノ要品ヲ運輸スル為
メ汽船四艘ヲ有シ中ニ壱百馬力ノ汽船一隻アリ是ハ食水三尺ナリト予此
揚リ場ニ於テ汽船三隻ヲ待タリ中二隻ハ「アリトルシキップ」ニ車輪ヲ付ケタルモノ
ナリ（アメリカンセシテム）氏ノ「インセニウル」ハ曾テ黒龍江通過汽船ノ甲必丹タリシ由
自ラ語テ曰ク「アムール」ハ澪筋ニ絶テ岩ナシ船ヲ擱スルトモ沙故ニ大患ナシ渉水
処ハ水三尺ニ至ルコアリ　「チエレンヂンスク」ニハ電信局モアリ又是処ヨリ一「ウヲルスト」前ニ「ウラフ」ト云フ一小村アリ
夕七時同所ヲ発シ十八九「ウヲルスト」進ミテ彼ノ有名ナル「アルバヂン」駅ノ前ニ泊舟ス

千時夜已ニ暗黒ニシテ四方ヲ眺ノ糸スル能ハス只泊舟処ノ一小島アルヲ見ル是ハ往年魯人ト支那兵ト戦ヒシ処ナリ

「アルバチン」ハ家数二三百軒モアル村ナリト云フ同所ノ電信局長我カ船ニ来リ用向ヲ問ヒ且ツ電信局ヲ一見セシコトヲ乞フ乃チ登陸シテ其家ニ至リ先ツ電信局ヲ訪フニ「モルセ」ノ仕掛五個アリ乃チ左ノ電信ヲ子息金八ヘ遣ス

Enomoto Kinpati Jaimushio Tokio.

Left for Vladivostock.
Middle October will be home. Thank Kuroda.

All well.

Enomoto.

右二十語ニテ十三「ルーブル」ナリ又「ウラヂオストク」碇泊ノ開拓使箱館丸ノ鈴木大助子ヘモ二十語ノ電信ヲ遣シ以テ我子一昨日ヲ以テ「ストレチンスク」ヲ発シ来ル十九日ニハ「ハバロフカ」ヘ着スベキ旨ヲ為知タリ此ノ代価ニ「ルーブル」タリ

夫ヨリシテ局頭婦及娘子息等ニ面会シ待遇甚ダ懇ニシテ予カ来訪セシヲ祝セリ「ソサイチイ」ハ実ニ亜細亜ノ一帯ヲ占メ局頭夫婦ハ「ヒンランド」人ニシテ「セバストポル」ノ戦ニ子ヴカリシ旨ヲ予ニ語リ且ツ日本ノ武官ニナルヲ待バ幸甚ナル旨ヲ予ニ懇遂ニ別ヲ告テ帰船ス

此ノ泊舟所ノ処ヨリ魯ノ方ハ高シ電信局ハ約五十尺ノ高所ニアリ「アルバチン」駅ハ泊舟所ヨリ三「ウルスト」ノ処ニアリト云フ予電信頭ニ電信線ノ所在ノ間ニ「アムール」ノ左岸ヲ十「ウルスト」乃至十五「ウルスト」ノ処ニアリト云フ然レトモ連年水害アリテ秋八月及雪解ノ出水ノ時ハ水勢ヨリ十「サーゼン」ニ及ヒ澤ノ如キ処モ皆渺々タル水トナルト云フ

因ニ云フ去年六月「ウスリ」地方ノ出水ニハ魯村モ浸サレ溺死セシ者頗ル多ク支那ノ方ニテハ穀物ノ害セラレ餓死セシ者二百人アリシト魯ノ方ハ史ニ Russian or the Amur

二譲ル

本日昨日ヨリモ暖気ヲ覚フ寒暖計ハ午前九時ハ七度午後モ右様之ニ同シ
午前七時ヨリ下雨霏々〇午飯小「ロレサ」ノ乗人(先食ノ類ヲ父子船ニ乗組
皆ヒリ)ニ其楽ヲ奏セシメ一等ノ客各各「ルーブル」ヲ与ヘ興ジ合ヒタリ予ハ二「ルーブル」
ヲ与ヘタリ其子ノ踊リ甚タ観ルベシ
本日経過セシ「アムール」ノ河幅我カ一町ヨリ二町ニ至リ清筋ノ直線ハ往々
我カ二十町ヨリ一里ニ至ル者アリ水モ深キヨリテ一等「ロード」ヲ入レシ
電信局ヨリ寓船セシ頃ハ雲アリト雖モ星月ヲ見天気ナクシテ和
極メテ静カリ

〇本日午後「アムバチン」ヨリ五十「ウルスト」ノ処ニ「ベトノワ」村アリ茲ヲ
奥ニ「ブルガリー」ト云フ小河アリ「ブーチニ」民ノ明年ヨリ取掛ラントスル沙金
場是ナリト

十六日 快晴

朝六時前ヨリ解纜シタレ共寝ヲ貪ラテ起キズ七時過テ甲板上ニ出ツレバ船已ニ前進
シテ「ベトノワ」村及他一小村モ後ニ為セリ「アルバチン」ヨリシテ「アムール」ノ河幅廣キコト
我二三町若クハ七八町トナレリ七八町モアルベキ処ハ岩山殊ニ多クシテ清筋ノ
何レニアルヲ弁ジ難キ程ナリ処々ニ「カガラ」・負村アルヲ見ル就中「トルバチン」ト如
キハ稍大ナル村ニテ屋数ハ二十四五軒モアルベシ「トルバチン」以来両岸地甚タ高
カラズ往々一丈許ノ岩ヲ為セリ但シ一方ハ常ニ岩山岸ヲ為ス而シテ其岩ハサンド
ストーン」又ハ堅固ナル「コングロメラート」ヨリ成レル此ノ風体石中ニハ「ガラニート」「クワルツ」
「セレニート」等ノ混和セシモノ多シ朝未天気快晴ニシテ風向モ緩キ我邦小
春ノ如シ両岸樹紅葉セシ様ト岸ノ形状等ハ予ヲシテ往年石狩河ヲ遡ノ進懐
セシメタリ午前十一時「アムール」社ノ汽船「ゼヤ」号ノ者流ニ沂テ来ルニ逢フ船形ハ
我ノ稟組ニ異ラズ稟組客モ頗ル多シ但シ黒龍河岸ニ住ノ民ノ一半ヲ他ノ

二赴ク者多キニ居ルベシ

午后二時頃「ウリヂギー上」ト云フ処アリ此処ニ上ル「アムール」社沙金役所アリ戸数約五十軒許百二十「ワルスト」奥ニ「ウリヂギー上」ト云フ小河アリテ沙金ヲ洗ヘリ此ノ「ウリヂギー上」ヨリ九ノ十四、五「ワルスト」ニシテ又役所ニ「アルバチン」ヨリ一百六十「ワルスト」ナリト云フ夫ヨリ「五ルナヤ」ト云フ所アリ此処ヨリ「アムール」社沙金ノ役所アリ戸数約五十軒許見ヘタリ即チ此ノ奥二百十「ワルスト」ノ処ニ沙金少アルナリ

夜九時半頃白山ノ岸ヲ過グ此岸ニハ石炭ノ層アリテ終歳燃ユ烟出ヅト云フ一日船上ヨリ諦視シタルニ月未ダ充分高カラザルト雖モ銅ノ深キヨリ以テ弁ズル能ハサリシ、仄ノ月明如晝天際片雲ナシ征人ノ声空中ニ響キ秋思殊ニ清シ乃チ小律一首ヲ得タリ

玉兎漾波金塔横曜星徐動夜三更黒龍江畔仲秋月
蛇影映横
恩起當年林子平
轉病

斯ノ興ニ合シテ江面ヲ眺メ望ロニ感慨ノ情ヲ催シ暮リシガ頃ニ霧起リテ前途尺尺ヲ弁ズル能ハザルニ至リ甲必丹船ヲ停メ錨ヲ抛ツ一二時間霧北風ニ吹拂ハレ前路再ヒ明カナリ花是板錨再ヒ独走ス夜十一時半一小村(家数四五軒許)ノ岸ニ泊シ薪ヲ積ミ夜ヲ明ス

十七日

本日発途セシニ忽チ河幅我カ四丁餘ノ地ノ如キ観ヲ為セル所アリ是ハ西岸ノ山相距ル遠クシテ山下ヨリ次第ニ両ノ牢地江ニ連リシナリ島嶼亦甚タ多シ鴨厂ヲ見ルニ極メテ多シ鴛鴦ノ方ニハ「カサク」ノ「スタンチヤ」折節アリ又様ニ大ヲ燃シテ釈月江ノ下心者二ヲ見受ケタリ

終日漕筋ハ十八、九丁ヲ我ノ一里半ニ至ル流木ヲ見ズ

本日左岸処々ニ居ヲ遮ヲ見タリ又人家アル処ニ烟ヲ見ルヲナシ更ノ方ニハ「カサク」或ハ「ソバ」ヲ作ル処モアリト云フ地味素ヨリ極テ膏腴ナリ

朝霧甚タ深キヲ以テ七時ニ始メテ纜ヲ解テ棧橋独走ス東南ノ風暖ニシテ朝七時ニ八度タリシガ十時ニ三上テ十二度ニ至レリ朝未ダ陰ナリシカ須臾ニシテ細雨来ル十時半頃左岸頭ニ山斬立スル所アリ近テ之ヲ観レバ古キ「サンドストン」ノ山骨悉ク峥嶸ヲ以テ切リタル如ク山頂ヨリ水面ニ入ル甚タ壮観タリ其色尋常濃ノ茶色ニシテ尖ル所ニ酸化鉄固着シテ黄赤色ヲ装ヘリ其高サ約百三十尺許、斯ル佳景ノ岬ナルヲ以テ「カルサコフ」ハ其筆前ノ東「シベリヤ」ノ総鎮台ヲ勤メタル人ナリキ、「カルサコフ」岩ノ向側ニ一條河流「アムール」ニ入ル此河ヲ「クマラ」河ト云フ支那領ヨリ此河筋魚鉄領多キヲ以テ「マチーグル」人集来テ漁スト云フ夫ヨリ四、五「クタルスト」ノ程ヲ左岸ニ一小村アリ「クマラ」村ト云フ家数八軒中ニ電信及郵便局アリ又寺一ツアリ岸ノ高サ一丈五尺ニ過ギズ斯ニ出水ノ時ハ推流甚ベキ筈ナレドモ(水ノ高サ毎年三四「サーゼン」ニ至ルト云フ)此辺ニ「アムール」河幅広キ我カ二三十町ニ至ルヲ以テ水室ニ持キリ斯ノ河幅広ケレド畢嶋峙散羅ナル為テ水際ノ距離ハ

我カ三四町ヨリ広カラズ

朝ヨリ正午迄間渡筋一条ノ長サ我二里許ノモノ二ケ所モアリ短キ者モ三十町ニ下ラズ真ニ良河ナリ船頭ヨリ遠山ヲ望メバ樺皮紅葉ニテ蒔紅色ノ「ブランケット」ヲ覆ヘルカ如シ而シテ青松其際ニ立テ班紋ヲ綴ル如シ

又洲上ニハ草茅茂生スルヿ羊毛ノ如シ

正午ヨリ雨降続キテ午后六時頃天晴ル動モスレバ雨降ラントス六時半頃ヨリシテ両岸共ニ二百尺許ノ山トナリ河幅約我三町ニシテ一条ノ渡筋ハ我三里餘ニ至ル魯岸ニ支那岸モ共ニ次第ニ低クナリテ遂ニ平原トナルカ如シ但シ黄昏ニ会シテ弁スベカラズ魯岸純ノ低地ヲ為ス始メノ処ニ「ビヒコリ」ト云フ一小村アリ家数十軒許ヲ見ル電信局アリ電線モ見ユ支那ノ方ハ典魯ノ方ヨリモ断(タヘ)多ク此傍山皆江ニ向テ走リ尽キ魯岸ニ至テ再起ス其状恰モ養庫ノ並立スルカ如シ斯ノ如キ南北ニ走ル諸山ノ渓間及山下ヨリ江ニ臨ム処

ノ一条ノ平地ハ広カラスト虽茂草多クシテ牛羊ヲ牧スルニ便ナリ故ニ民ノ処ニハ秣草ヲ
刈取リタルモノ積テ堆シ魯民ノ渡リ来テ刈取リタル者ナリ「ビ、コク」村ハ「ブラゴウェ
スチンスク」府ヲ距ル七十「ウヲルスト」タルヲ以テ今夕ハ着スベシ「デッキパッセンヂェル」ハ徐ニ行
李ヲ理セリ是レ同府ニ至ル者ナリ
因ニ云フ「デッキパッセンヂェル」ハ多クハ「アルバヂン」ヨリ乗組タリ男女児童皆アリ予其ノ
食事スルヲ見ルニ各自其携ヘ来リシ黒麦ノ「パン」ト塩トヲ除ク外ハ磚茶ノ一
片ト少許ノ砂糖ヲ所持セルノミ蕃薯ヲ袋ヨリ出シ甲板上ニアル「サモワル」(茶湯沸
ノ烟出ニ適スル蓋ヲ以ノ「サモワル」中ニ通ハシメ以テ水ヲ烹ルニ供セリ此レ魯人ニハ乏クベカ
ラサル者ニテ予等モ此ノ湯ニテ茶ヲ烹ルナリ)ノ熱湯ヲ以テ蒸シテ喰フ者ハ稍富
メル者トモ云フベキカ然ルニ斯ル「デッキパッセンヂェル」モ皆毛衣及枕ヲ用意シ防寒ノ
具ニ乏シカラス予又此十数人ノ船客ノ面顔ヲ見ルニ往々亜細亜種ヲ混シタル者
アリ其色ハ我等ト同シ位ト黄色ニシテ只顴(ホウ)骨ハ我等ヨリ低キノミ此ノ「デッキパッセン
ヂェル」中ニ二人ノ愛スベキ少年アリ兄弟ナリ其眼色実ニ本邦人ニ髣髴タリ又哈薩
克一人アリ「アルバヂン」ノ者ニ係ル渠云フ我等ハ二十ニシテ兵役ニ就キ或ハ「ザバイカル」ノ各
処ニ一年モ千役シ本土ニ帰リ来テ二、三年モ過クレバ又々一年モ他処ニ勤番ス
如是キコト十五年間ニシテ齢三十五ニナレハ全ク本土ニテ農事ニ就キ復タ他出セス
本土ハ雑木多キヲ以テ耕作ヲ起スニ甚タ便ナラス馬牛ヲ所持シテ生活ス稍富メル者
ハ雞豚羊等ヲモ所持セリ活計ハ甚タ易カラス黒麦ハ一「プード」ニ付一「ルーブル」
半白麦ハ殆ト二「ルーブル」ニ至リ牛肉ハ一「プード」ニ付「 」タルヲ以テ祭日ニアラサレハ肉
食スルコトナシ雞林ヲ持スル者ハ卵ヲ喰フヲ得レトモ左ナキ者ハ塩若クハ自ラ漁セシ
魚ヲ喰フノミト云々
夕八時半頃全ク暗黒ニシテ只僅ニ支那岸ノ高キニ比シテ前途ヲ髣髴弁シ得
ベキノミ魯岸ノ方「ホリソン」稍明カニシテ山ヲ見ス斯ル黒夜ニ航スルヨリハ午間濠
筋ノ一直線ナル処ヲ並気力ヲ増シテ駛走シタラン方途ニ愧ニシテ定期ノ場所ヘモ

遥カニ着スベキ甲岩丹ハ午前部屋ニ入テ「カルト」遊ニ日ヲ消シ居リ
夜已ニ暗黒ナルヲ以テ甲岩丹ハ船ヲ一岸ノ下ニ泊セシガ十二時ニ明月雲間ニ顕レ
前途杳シ待ツベキヲ以テ櫓ヲ操(扱)キ撓(艪)走シ夜二時ニ「ブラゴウェスチェンスク」府ニ着セリ
本日航途七里(午後)ヲ河幅我二町ヲ四五町ニ至リ一直線ノ深谷前我二里ニ
至ル処アリ十二三丁ヲ隔テ短キ尖峰極メテ少ナシ山ハ野ク〳〵ニテ平原ヲ為セル両岸
共ニ多シ

十八日 快晴暖氣小春ノ如シ

「デフキノパヲセン」(二十五露里)ハ拂暁ニ去抵皆「ブラゴウェスチェンスク」府ニ登陸シ永夫等甲板
上ヲ洗フノ音耳ニ喧シクシテ朝五時ニ眠覚メタリ出テ、甲板上ヨリ両岸ヲ見レバ共
ニ平遠ノ郊原ヲ為シ山ハ魯岸ノ方ハ二三「ウェルスト」ニシテ高カラズ支那ノ方ハ殆ド
山ナシ「ブラゴウェスチェンスク」ハ西北ニシテ東南ノ向岸ハ満洲ノ「サハリン」村ヲ見レ
支那砿黒龍江岸始メテノ村ナリ

「ブラゴウェスチェンスク」ハ岸高サ十五尺許ニシテ粧土ノ乾(乾)タル粉ヨリ成リ支那ノ方モ
亦同地味ニシテ只低キノミ、稠密樹林ハ少ク婦樹鰹原ス
早朝ヨリ「ポリシレーメーストル」電信局頭、鎮台ノ「アヂュダント」等皆正服ニテ舷ニ来リ待
ツヲ予カ朝起ヲ待チ居リ乃チ海軍小禮服ヲ着テ之ニ接シ九時ニ鎮台ヲ訪ハ
ンコトヲ約セリ

九時馬車已ニ整ヒルノ報ス於是市川書記官、鎮台ノ「アヂュダント」及甲岩丹
等ト共ニ鎮台「オッヲンベルグ」氏ノ邸ヲ訪ヘハ鎮台ハ戸外ニ予ヲ迎ヘ客堂ニ就
テ茶菓(菓)ノ出シ最モ殷勤ノ極メタリ同氏ハ日耳曼ニ通スルヲ以テ予カ為メニ大
ニ便アリシ同氏ハ陸軍大佐ニテ鎮台ヲ兼ネタリ同氏ト半時間許談話(後ニ出ス)
ノ後予ハ府内ヲ一見センカ為メ暫時別ヲ告ケンガ同氏ハ許将ノ車ヲ出シ予ト同
車シテ来リ廻ラントテ甚ク敬礼ヲ表スニゾ乃チ同車シテ先ツ「ギムナシユム」ヲ訪ヘハ
七八才ヨリ十五六才迄ノ少年五十人アリテ極少年ノ者ハ魚魚獣類草木

名ヲ教ユル為メ画ヲ壁ニ掛ケ又地球圖、等モ列ヌタリ都合三等ニ分チテ部屋ヲ異ニシタリ衣服ハ大抵皆一様ニシテ清潔ヨリ以テ学校ハ政府ノ入費ニ係ル貴賤人ノ別ヲ立テスシテ皆一様ニ列坐シテ教ヲ受ケリ少年中ニ日本人ニ少シモ遜ハサル眼色恰悧ナル好少年一人アリ予ハ多分朝鮮人ナラント思察シテ之ヲ問ヘバ果シテ然リ夫ヨリ女学校ノ間ニ同ジク七八才ヨリ十四五迄ノ小女一百四人アリテ教ヲ受ケタリ其教ヘ方等スベテ前ニ異ナラス只十三四ノ娘ニハ手業即チ縫裁ヲ教ユルノ一課アリ此学校ハ府民ノ費ニ係ル故ニ立前学校ヨリモ大ニ入ル者ノ数倍セリ最早出ヅルヘキ者ナキ由ナルヲ以テ予ハ写真師ノ家ヲ訪ヒ且ツ府ノ写真ヲ買ハント欲スル鎮台兵同行シテ去ラサルヲ以テ予ハ渠ニ辞シ約束ノ如ク一時ニ同氏ノ邸ニ於テ同食ス迄暫ク帰船スベキ旨ヲ述ヘテ謝ス同氏予ノ意ノ暁リ「アヂュタント」ト馬車ヲ予ニ付シ已レハ歩行シテ即チ帰リ但シ「ポリシメーストル」ハ別車ニテ先導セリ写真師ヲ訪フニ南所景ハ一枚モ有セス

因テ我ニ写シテ「ウラヂオストック」ノ日本館近次ノ便ヲ以テ送ラレメンコトヲ約セリ即チ一ハ江中ノ汽船ヨリ府ヲ見タル景一枚ハ府内ノ景一枚ハ府ヨリ江ヲ隔テ向岸ノ丈那「サガリン」村ヲ望ム景ニ取極メタリ写真師ハ横民ニテ右ノ景二枚ニテ貳拾五「ルーブル」ヲ得ント言出セリ格外ノ価ナルヲ以テ予ハ暫ク黙シテ語ラサリシカ「ポリシメーストル」「アヂュタント」等側ヨリ渠ニ迫リ遂ニ渠乃チ一枚五「ルーブル」ヅヽニテ写サント言出セリ予茲ニ於テ前文ノ如ク三枚ヲ誂ヘタリ後ニ考フレハ二枚五「ルーブル」ニテ殿様直段タレハ此辺物価貴キト買手ノ稀ナルトニ依テ然ラン歟ト察セラル但シ其大サハ六寸ニ五寸許リナリ

然ル猶民ハ殊ニ貴賓ニ接スル忍ヒ人種ニアラサルヲ以テ其使ニ迫コレ置キヌ

写真師ヲ出テヨリ「ポリシメーストル」電信頭、汽船社ヲ答礼ノ為メ訪ヘリ「ポリシメーストル」ノ家ニテ酋府ニ生セシ水瓜ノ小ナルト雖甚タ甘クシテ砂糖ヲ要セス氏ノ家ノ小使ハ朝鮮人ニテ好男子タリ

夫ヨリ「アギダント」市川子ト三人同車ニテ府内ヲ縦横ニ駛セ廻リ府ハ江岸ニ沿テ三四丁ヲ以テ止ノ間人家アリ奥行モ四町許ノ処アリ皆丸木作ニテ石屋ハ一軒モナシ人口ハ鎮台ノ言葉ニ拠レハ凡ソ七千人アリト又途中ニテ「アチェダント」ニ問フニ当府ニ正兵一大隊砲兵一「バッテルイ」唱薩克一「ソットニヤ」ノ由同氏ノ言ニ当府ノ大隊ハ四百五十人ニテ東「シベリヤ」ヨリ六年交代ニ係ル唱薩克ハ一年兵隊ニ就クヲ甚シキ苦ノ由ニテ捉ラレタル以テ有事時ハ唱薩克無三千人ヲ集メ得ベシト

府内江岸歩頭ニ樹木ヲ正シク植並ベタル処ハ八九丁アリ路幅ハ他ノシベリヤ」府内又ハ村落ノ如ク我十二三間モアルヲ以テ一見ニテ開化人民ノ住居スル処ト感ズ何シ此樹木ヲ植並ベタル歩頭ノ一方ニモ構中ニ樹多シ而テ鎮台ノ邸ハ式中ニアリテ後面ハ歩頭ノ樹ヲ程能ク隔キタルヲ以テ鎮台ノ客坐数ノ窓ヨリ家園ヲ距テ黒龍ノ流ヲ眺望シ得ベシ邸ハ建府ノ始メニ立テタル木屋ナレ

始メヨリ能ク注意シテ景色ヲ建築セシ者ヨリ歩歩ニ樹モ其処他ヨリ移植シテ行儀ヨク植ヘタルモノナリ寺観ハ二個ニテ「ビショップ」一人住居セリ

儲ヲ車ニ遊ル毎ニ兵卒ハ勿論商人等モ尊ムノ意ヲ表シ「イオレフト」及勲章等ヲ胸ニ掛ケ居タリシガ隣国（日本）ノ公使タルヲ称シ得ルニ至リテハ尚更驚キタル眼ヲ好テ我等ノ行ク立止リテ諦視スルモ礼儀スル者ハ一人モナシ

前モ記セシ如ク当府ハ黒龍江ノ岸ヨリ歩歩ニ樹ヲ植並ベタル処ハ八九丁アリ路幅ハ他ノシベリヤ府内又ハ村落ノ如ク我十二三間モアルヲ以テ一見ニテ開化人民ノ住居スル処ト感ズ何シ此樹木ヲ植並ベタル歩頭ノ一方ニモ構中ニ樹多シ而テ鎮台ノ邸ハ式中ニアリテ後面ハ歩頭ノ樹ヲ程能ク隔キタルヲ以テ鎮台ノ客坐数ノ窓ヨリ家園ヲ距テ黒龍ノ流ヲ眺望シ得ベシ邸ハ建府ノ始メニ立テタル木屋ナレ

前モ記セシ如ク当府ハ黒龍江ノ岸ヨリ歩歩ニ樹ヲ植並ベタル処ハ八九丁アリ路幅ハ他ノ

八月（毎年）水増ス時ハ水ノ高サ十尺餘ニ至ルト雖水ヲ冠ルニ至ラス只七十二年ノ大洪水ニハ府内ノ市街ハ汽船航通シ而テ推シ流サレシ家モアリ此後未タ修繕ヲ加ヘサル跡モ予カ目ニ触レタリ進ニ府内ハ特筑ニ百余ノ家少ナカラサルヲ以テ逐年繁昌ニ赴クノ兆ヲ見ハセリ

当府ハ商家二十軒モアリ就中外国人ノ商店ハ独逸人二軒佛蘭斯ノ小店
一、支那ノ商店ハ「シニヤシン」「サイー」ノ二社アリ是ハ魯ノ標記ヲ借リテ商フモノナリ其
故ハ支那政府ハ支那商ノ当府ニ来テ住居シテ営業スルヲ禁スレハナリ此ノ餘ノ
商店ハ皆魯人ナリ物價表ハ別帳ニ記ス
十一時ニ暫時帰船シテ甲必丹ト共ニ当府ヨリ河上五「ウヨルスト」ノ処ニ赴キ「ムラビヨフアムルスキ」ノ記念石ヲ見ル此処ハ千八百五十二年ニ「ムラビヨフ」氏兵ヲ率ヰテ黒龍江ヲ下リタル時始メテ登陸シ假ノ兵営ヲ設ケシ処ナリ記念石ハ煉化石ニテ「ピラミダール」ニ作リ高サ十五尺許ナリ五十八年ニ建テタルモノナリ遠歟郊野ニ生セル樹ヲ見ルニ柏木ノ小ナル者甚タ多シ樹木ノ一変セシ證ナリ然レトモ白樺ト松樅ハ依然諸処ニ見ユ
十二時四十分帰船スルニ鎮台ノ車ハ船場ニアリテ予ヲ待テリ予乃チ市川子ヲ拉シ甲必丹モ同行セリ船場ニハ府民及支那人満洲人等群ヲ為シテ予カ登陸ヲ見物セリ船場ヨリ陸ニ上ル木階ノ側ニハ哈薩克二人番ヲ為シテ立テリ
備鎮台ノ邸ニ至レハ鎮台ハ廰前ノ戸外ニ出テヽ予ヲ迎ヘ陸軍楽隊ハ廰前ニ並立シテアリ鎮台ト共ニ戸ニ入リシ時楽起レリ客間ニ入レハ当府ノ文武官弁セテ二十四五人許一切ニ駢立セリ鎮台ハ一〻予ニ引合セリ中ニ「バロンストッケル」氏ハ独逸語ニ尤モ能ク通セリ又当府ノ「ビシオップ」モ来臨セリ
夫ヨリ盛饌アリテ二国ノ懇親及互ノ「サンテイ」杯ヲ飲ミ二時半ニ宴ヲ了レリ
宴中ハ時々奏楽アリ鎮台「ヲッフェンベルグ」氏ハ明年五年ニ満ツルヲ以テ彼得堡府ニ帰ルコヲ願シ、楽ミ居リ同府ニ於テ予ニ再見セシコヲ両三次モ言出セリ
食机中ニ予カ麦酒ヲ嗜メルコヲ聞キ鎮台ハ当府ニ於テ製造スル麦酒ヲ出シテ予ニ飲マシメタリ未タ新酒ナルヲ以テ「ホップ」ノ香強ク味甚タ佳ナラス鎮台並ニ「ストッケル」氏口ヲ揃ヘテ熟スル時ハ佳味ヲ為スコヲ請合ヘリ予依テ「ホップ」ハ何処ノモノヲ用ユル歟ヲ問ヒシニ「バファリヤ」ノ種ヲ取寄セテ当地ニ植付ケタルナリト

者へり茲に「ホップ」ハ種ニテハ能ク生スルヲ主張シ既ニ其園ニ生セシ「ホップ」ト種トヲ予ニ恵セリ予其乾ケル葉ヲ嚙ミ苦味甚ダ濃ニシテ殆ト無味ナリ然レドモ予ハ其「バワリヤ」産ノ品ヲ味ヒシヲナキヲ以テ佳否ノ評ヲ下シ難シ「ストゥケル」氏ハ戻ノ種ヲモ予ニ恵セリ又「アムール」産ノ「アセトリーナ」魚ノ子（即チ「イクラ」、佛「カウヒヨル」）ノ塩付ヲモ予ニ贈レリ予之レヲ味フニ精製ト云ヒ難シ其故ハ塩ニ漬ケシテ油気甚タシク黄色油ハ七ニ殘リテ痕ヲ止ムルハナリ商人「ペーテルソン」氏ノ話ニ「アムール」ノ下部ニハ「アセトリーナ」殊ニ多ク来製ノ品ハ一「プード」ニテ二「ルーブル」ニ過ギズ製衣品ハ精粗ニヨリテ十二「ルーブル」ヨリ二十「ルーブル」ニ至ルト又「アセトリーナ」ノ気胞ハ魚肴ニ供セラレ乾シテ賣買ニ出ス其量頗ル多シト「カビヤール」製法ハ未製ノ品ヲ味噌濃漿ノモノニ入レ屢次水ヲ以テ能ク洗ヒ味噌ノ穴ヨリ降下セシモノヲ集メ麻袋ニ入レ適宜ニ塩ヲ和シテ「プレス」スルナリト此等ノ話ハ粗漏ニテ記スルニ足ラザルドモ姑ク其ノ具ヲ之ニ記スルハ記スルニ越シタルハナシト思ヘバナリ

三時頃ニ鎮台ニ到リ帰船ス時ニ「ペーテルソン」氏予ヲ向岸ノ「カザリン」村ニ連行カントテ一小汽船ヲ僦ヒ来リテ船ニアリテ予カ帰ルヲ待テ居レリ予ハ愛琿ニ於テ船ヲ停メンコトヲ甲必丹ニ頼ミシヲ以テ需ニ応スルニ時ナシト雖モ意黙止シ難キト支那村落ヲモ一見シタキトノ二心抑ヘカタクシテ遂ニ甲必丹ニ三十分間ヲ乞ヒテ向岸ニ向フ甲必丹モ鎮台ノ「アヂュダント」モ其他満洲通事モ亦同船セリ「サガリン」村ハ前ニモ記セシ如ク「ブラゴウエスチェンスク」府ノ前面ニアリト雖此処ノ河幅ハ我三町餘ニシテ流ハ頗ル急ナリ斯リテ村ニ至リ支那ノ一商ヲ訪フニ舘主ハ留守ニシテ番頭ノミ在リ此ノ番頭ハ「ペーテルソン」氏ノ相識ニシテ予カ日本公使タルヲ聞キ大ニモテナサントシタレドモ予ハ時ナキヲ以テ直ニ暇ノ告ケテ帰船セリ此村ノ家数ハ二十軒許ニ過ギスト雖支那ノ商人住居シテ「ブラゴウエスチェンスク」府ト商業ヲ営メルヲ以テ其家ハ甚タ華麗ナリ村民ハ満洲

人より満人ト支那人ハ容貌モ衣服モ同じキヲ以テ袂別スル能ハス
予カ小汽船ニ乗組ミタル中鎮台ハ自身ニ別ヲ告ル為メ本船ニ来リ予ハ
時ナキヲ以テ船中ヨリ立礼ニテ別レタリ
午宴ヲ終ヘ鎮台予ニ諸テ云ク閣下ノ愛琿府ヲ訪ハルベキ由ハ既ニ「サガリ」ニ村
ヨリ愛琿ノ支那鎮台ヘ為知タリト、又鎮台ハ其「アヂュタント」ト満洲語ニ
シテ「クルスト」ノ間ニ連ル或ハ
ノ方ヨリモ村落ヲ散置シ殆ト愛琿城迄三十
釣ヲ垂ル者アリ又樺ヲ採ル者アリ村落ノ老若男女岸ニ立テ我船ノ過ル
ヲ見ル予望遠鏡ヲ以テ其容貌衣服ヲ見ルニ支那人ト異ルナシ家屋
自国風ニ建ツル者ナレ外見ハ却テ魯領貧卿ノ人家ヨリモ佳ナル似
タリ渠等皆農事ヲ勤ムルト皆薩克ヲ逐ニ愈ルル由魯岸ノ方ニ住ム

満洲人モ亦然リト云フ「ブラゴウエスチンスク」ヨリ数クモナクシテ魯岸ニゼヤ」ナル一大河流
入ル此河口ハ四百「クルスト」モ下ル船ヲ航通シ得ベケ而ヲ其枝河ヲ為ス小流
ニハ砂金多シ此「ゼヤ」河口ニ満洲人ノ村落アリ愛琿城ノ約前ヨリ「アム
ール」左岸ニ住居スル者ニテ支那ノ戸籍ニ属スル者ナリ此種ノ民現ニ魯領内ニ在ル者殆ト七、八千人モアリト云フ而シテ其ノ
村落及附属地ハ其民ノ所有物ナルヲ以テ魯政府ヨリ之ヲ買入レ能ハス魯
商等此地ニ臨言ヘバ家屋ヲ建テント欲スル時ハ愛琿ノ鎮台ニ許可ヲ受ケタ
ル後ニアラサレバ能ハストニ云フ
午後五時頃我船已ニ愛琿城ノ岸ニ達シテハ満城ノ士女皆出テ我等ノ登
陸ヲ見物セントテ待構ヘ雑沓甚タシクガヤく話スル声本人ノ語音ニ髣髴聞
タリ甫テ満洲騎兵ノ士官二人白服ニ来テ出テ来リ船場ニテ馬ヲ下リ予
ヲ迎フル士官ノ服ハ通常ノ支那人ノ服ニ異ナラズシテ只白衣タリ寛ハオムヘケール

テ、チーヘル」状ニシテ赤キ毛ヲマバラニ覆ヒタリ但シ此冠ノ頂ニハ何等ノ玉ヲ付ケタルヤ否ハ莫審ニテ辨知スルニ暇ナカリシ乗リ来リシ馬具ハ西洋風ニ大同小異ニシテ吾邦ノ馬具ヨリハ簡便ナリ、タヅナモ皮ニシテ洋風ニ異ナラス察スルニ西洋ヲ模シタルナラン馬ノ咽ノ下ト「ムナガヒ」ニ赤毛ノ房ヲ二ツ付ケタリ是ハ「ゲネラール」ニアラザレバ用ユル能ハザル由我等既ニ上陸シタレバ彼ノ二士官ハ馬ヲ予ニ勧メリ於是予ト「アヂュダント」ハ其馬ニ乗リ満洲士官ハ予カ馬前ニ両人並ビテ前導シテ徒歩ス恰モ吾邦往日ノ徒士(カチ)ニ似タリ群童等予カ馬側ニ添ヒ来リ頻リニ「アムパン」〻〻ト呼ベリ「アムバン」トハ満語ニテ将軍ノ謂ナル由支那ノ辺塞ヲ守ル鎮台ハ皆「ミリタイレグーブルニウル」ナルヲ以テ「アムバン」ヲ鎮台ノ義ニモ取レリ抑モ愛琿城ハ「アムール」ノ右岸高サ約二十尺ノ平地上ニアリテ黒龍江ノ総鎮台ナリ奉行ハ満人ヲ用ヒ附属役人モ満人多シ船場ヨリ市街ニ出ヅルニ路幅狭キコト我邦大阪ノ街ノ如ク而シテ処々ニ泥濘深ク又車轍ノ痕地中ニ深ク入リテ数条ノ細溝ヲ為セリ或ハ雨水タマリテ路傍ニ穴アリ其深サ馬脛ヲ犯スコト少ナカラス一言ニシテ之ヲ言ヘハ極メテ悪シキ道路ナリ人家ハ皆木製ニシテ楼ナク屋根ハ我邦ノ人家ト同形ナリ又土墻ヲ以テ竹籬ニ当テタルモノ多シ時已ニ黄昏ニシテ物色ヲ辨シ易カラサレドモ市人ハ皆戸ヲ出テ我等ノ過クルヲ立見セリ店ハ大抵皆已ニ鎖ノ燈火サヘモ外ニ漏レズ行クコト三四丁許ニシテ郭内ニ入ル郭ハ丸木ヲ立テ囲ミ鉄夫ノ蒙古又ハ韃靼風ノ壁ノ如ク凹凸ヲ上部ニ付ケタリ暗昏ニシテ郭周囲ヲ概測スル能ハサリシカドモ約我四町四方モアルベクト思ハレタリ而シテ其高サハ三間許ナリ丸木ノ太サハ径我六七寸ニ過キズ二三斤ノ砲丸ニ逢ヘハ瞬間ニ破砕スヘシ但シ矢ヲ防クニハ充分タルコト疑ナシ予已ニ郭内ニ入ル郭門ハ楼門ニシテ我邦ノ見付ニ似タリ郭門ニ入ルヤ否突然大砲三発ヲ放テリ是レ予カ来臨ヲ祝スルノ意ナルヘシ砲ハ何処ニ備ヘアルヤ弁セスト雖モ丸木ノ構内ニ備ヘタルモノナルベキハ其音耳ノ辺ヲ距ル遠カラサル処ヨリ発シタレハナリ砲ノ所在ノミナラス其大小ヲ

モ知ルベカラスト雖内某ハ懸カニ洋品タルベキ音ヲ聞キ得ベシ蓋シ六什許ノ砲声ニ覚ヘタリ是クシテ鎮台ノ衛門ニ至ルニ一個ノ前門アリ「アヂダント」ハ此ヲ入ヨリ下馬スヘキ予ハ前門ヨリ入リテ更ニ一個ノ門ヲ入ヘキタルニヨリ下馬シ(其)門ニ入レハ鎮台モ出迎ヘ予ヲ手ヲ携テ庁内ニ入リ是即チ正廳ナリ二間アリテ一ハ數ノ磚ヲ以テシ一ハ木板ヲ敷キタリ是レ鎮台ノ上司ト称スヘシ一方ニ設アリテ机ハ其中央ノ洋ノ紋形ノ毛氈ヲ敷タリ鎮台ハ予ヲ上座ニ迎ヘテ自ラ次座ニ就キタリ但シ倚上腰ヲ掛ケル(ヨシ)ノ設ケタリ此ノ上ニ腰ヲ掛ケ板間ニ(ヲ)ハ「テーブル」四個ヲ並ヘタリ而シテ洋製ノ腰掛數個アリ窓ハ油紙ヲ張リ天井ハ白木ノ板ニシテ卍字ノ「ウェンチレーション」ニ供スル五六寸ノ穴二個アリ柱ニハ紅紙ニテ聯句ヲ書キ張付ケタルヲ支那ノ通例トス外洋製ノ下品ナル書物冊一ツアリタリ世界ハ飾物一切ナキ故ニ客間ノ索然タルヲ我邦ノ如ニ金ノ内シ広サハ凡ソ十五畳許モアルヘシ予ニ随行シテ雑然出入リタル者ハ市川、大岡寺見、甲必丹、満語通事、「アヂダント」等ノ外ニ船中ノ客七八人ニシテ其ニ半船客ナル魯婦モ内行シタルガ領事ニシテ帰船シタリ支那ノ方ニモ役人小使等給繕入乱レテ客間ハ一圏人ニテ満ケリ

鎮台ハ吉林ノ人ニシテ本名ヲ依克唐阿(イクタンガ)ト唱ヘ荊山ト号ス年四十九才ニシテ痩セテ丈ケ予ヨリモ高ク柔和ナル顔ニテ友愛ノ眼色アリ蓋シ資性好良ナル人物ト見受ケラレタリ渠予カ手ヲ握リ或ハ脊ヲ撫シナゾシテ款待ノ礼ヲ尽シ予カ帯ヲル剣ヲモ脱セヨト手似(マネ)ニテ示シタリ面辮ハ市川子魯語ニテ支那商(即チ「サハリ」村ニ住メル巨商ニシテ官位ヲ貰ヒ居ル者)ニ言伝ヘ渠ハ僅ニ覚得タル魯語ヲ満洲語ニ譯シテ鎮台ニ説クヲ次ヲ一語ニ二三譯ノ費シ而シテ真ニ能ク通シタルヤ否ハ大ニ疑ハレキ所ナリ此間鎮台ハ頻リニ予カ手脊ヲ撫シテ笑ヒ(是ハ礼儀タルニ相違ナシ)ナガラ「アウ、パカ、ホウ」ナゾト自ラ解スヘカラサル語ヲ以テアシラヒ居リ於是予ハ筆墨ヲ索シ筆談ヲ始メタルニ支那商並ニ満洲ノ役人等一層インテレストシタル

擬ヲ顯ハセリ予カ一字ヲ書ス毎ニ彼等皆予カ傍ニ集リテ文章及字体ヲ注視シタリ其時予ハ幼時「セキガキ」ノ件ヲ思ヒ出シテ自ラオカシク覚ヘタルカ無遠慮ニ揮毫(辞)達而止ト心組ヲ走筆ニ諸事ヲ書下シタリ鎮台ハ筆ヲ採テ答ヲ為スヲ予ヲモ甚ヲ遅ク具ニ譯文深ク遠セサルト見ヘ前文ヲ支那南北通事支那語ヲ助言ス心ナラン乎鎮台ハ通事ヲ以テ予カ官位及姓名(払)ヲ問ヒ又他ノ百般ノ雑話モアリタレ共重ニ予ヨリ発言セシコトヲ歩キニ居ル而シテ予ノ書キシ文ハ鎮台之ヲ収メ了ル後シ予ヲ方ニ残リシ筆談ノ一二ヲ筆クハ渠カ手ノ官職等ヲ問ヒシ件

予係日本国水師将軍兼欽差全権大臣ト書キタルハ渠ノ筆ヲ採テ左ノ如ク書キタリ

予係拙字荒僻小地学遇貴大臣賞光今得晤尊顔拝討ニ

予亦書シテ云ク

予駐扎俄国京城四年于此矣今秋将回帰于本国遂次過此地故欲一訪以賚爰隣交ヲ誼并以一見貴城内也

渠書シテ云ク

祈

貴駐留名祀此敝城幸遇大駕光臨實甚感激盛情切

光多ニ矣

ト認メタリ予亦書シテ云ク

貴国与我国交誼你汝容貌亦甚相似今将面語尊台實

是本懐

ト記シタレハ鎮台ハ之ヲ諦視シテ而手ヲ以テ予カ手ヲ握リ例ノアウ、パウポウ」

トモ云フヘキ口振(振)ヲシテ満面ニ喜色ヲ顯ハシタリ○渠亦筆ヲ採テ曰ク

予係吉林人氏祖愛輝副都統今三年名依克唐阿小号

予亦之ニ答フルニ予姓榎本名武揚号梁川ノ十字ヲ以テセリ予亦次テ書シテ云ク

初予思欲越俄国境畧入貴国経寧古塔吉林省城達北京今時季已晩故直越海帰日本也

ト書キタレハ渠日本国ハ台湾ヲ距ルヿ近キ由ヒ地ヲ何日許ニシテ達スルヤト問ヘリ即チ浦潮港ヨリ火船ニ三日ニシテ日本ノ北ハ盈扎加ニ接スル旨ヲ知ラシメリ比廠内ニ地圖トテハ一枚モナシ渠亦窃嵗魯土ノ戦如何ヲ予ニ問ヘリ予即チ本年旧暦正月三十日戦了リ魯ノ勝タルヿヲ知ラセ且ツ我国ノ武弁魯軍ニ在テ一年間我地ヲ研究セシヿヲ語リ間カセタリ此時鎮台ハ感心ラレ色ヲ見ハセリ予鎮台ニ問ヒ愛琿城人民何程アリヤヲ以テセシニ諸有司等相議シヤガテ支那人等ヲ採テ答ヘテ云ク玻琿

蒿人七万余人ト書キタリ実ニ笑フヘキ迄大ノコトタリ特ニ「アチダント」及魯人其数ヲ予ニ問フヿヨリ支那人ノ答ノ如ク七万人ヲ以テセシニ渠等大笑ヲ抑ヘテ云ク支那人猶疑ノ念深ク斯ノ虚言ヲ吐テ人ノ笑ヲ取ルヲ知ラズ渠等ハ閣下ノ問ヲ以テ別ニ意アルコトト考ヘタルナルヘキニヨリテ本日ノ譬問モ亦暑上ニ関係アルコトト認メナントヽ或ハ焉ンソ且ツ支那ノ風習ニハ真数ヲ問フヲ極メテ忌ム国ナルヲ以テ予ニ此種ノ問ヲ発シテ当府ヲ制衣造所アリヤト問ヒタルニ何ニモナシト答ヘタリ予又北京ヨリ当府迄郵便ハ幾日ヲ要スルヤト問ヒシニ有司亦相視テ答ヘテ曰ク郵便ハ七日ヲ以テ達シ荷物ハ一ヶ月ヲ要スト、魯ノ通ヲ側ヨリ問テ云ク汝学愛琿ヨリ北京迄幾里程アルト思フヤトテ其言ノ誤レルヲ譏ル支那人答ヘテ通事云ク渠等ノ答ハ虚誕ナリ郵便ハ十五日ヲ要スベシトテ予ニ謹答セリ此ノ説ノ方恐クハ確ナルヘシ

因云フ後ニ一等ノ船客李曾テ愛琿ニ在テ鍊兵ヲ見シニ或ハ弓ヲ帯

キ或ハ「マッチコック」銃ノ携ヘ不規則ニサワキタル後各自相笑ヲ出シテ隨意ニ鉛草ヲ喫シテ地ニ墜ス様実ニ馬鹿気ニテ名状シ難シト又云ヲ滿兵ハ助骨モ逞シキ者多キ故モシ之ニ十分ノ食ヲ与ヘ利器ヲ携ルヿヲ教ヘンスプリナ」ニ慣ラシメハ用立ノ兵ヲ得ル能ハサルニアラズト

鎮台書記ニ命ジ支那文ヲ以テ予ノ来訪ヲ悦ビ此地ニ暫ク停テヨヲ勤メタリ其文甚謙遜ニテ礼アリテハ本日ナキヲ以テ本夜再ト発船スル由ヲ告タリ鎮台予カ来訪ヲ北京ニ奏スヘシト云ヒ予ヲ鎮台カ隣交ヲ重ンシ予ヲ篤待セシ礼ヲ我政府ニ北京公使ノ江ヲ謝スヘシト答ハ置ケリ既ニテ茶菓及「シガレット」ヲ出シ且云ノ薯来ノ「今少シ先キニ知レタルヲ以テ盛饌ヲ勤メカタシト雖ヘハ辞饌ヲ改テ一盃ヲ共ニセラルレハ幸甚ト予乃チ其厚意ヲ謝ス于時机上ニ食器(即チ象嵌ノハシ)ヲ先キニ三寸許リ銀ノ付タルモノ及銀ノ小匕ト小皿等アリ)ヲ並ヘ洋製ノ硝子盃「ポルトル」酒ヲ酌シ鎮台先ツ予ニ向テ両国ノ交誼厚キヲ祝シテ飲ム予亦謝シ之ニ答酬ス鎮台ハ終始予カ下席ニ坐シテ酒食ヲ勧ムルヿ甚タ勤メリ渠ノ衣帽ハ文武官ニテ黄銅ノ玉ノ文官ナル由(普予カ次ノ机ニ列食ス本邦人並ニ魯人後ヨリ立チ観ル姿ハ甚タ礼ニ背レト人々感シタルヘシ鎮台ハ自ラ食ハスシテ偏ニ人ニ飲酒ヲ勧ムル様甚タ奇ナリト雖甚タ客ヲ待ツノ殷勤ナル実ニ勧メタリト謂フヘシ先是「プラゴウエチエスク」ノ鎮台ノ語ルニ曰ク愛輝鎮台ノ妻ヲ見タリト云フヲ以テ予ハ依氏(即チ鎮台)ニ妻子同住スルヤ否ヲ問タルハ渠云ク愚妻モヤガテ謁スヘシト予悦テ云ク予国ノ礼ニ於テモ賓客ヲ待ツヤ其妻出テ坐ニ興カルナリ云々一役側ヨリ予ニ言テ曰ク我国ノ凡人ノ妻ヲ見ル時手ヲ握ルノ礼ナシ願ハ預メ之ヲ諒セラレヨト予云ク之ヲ諒セリ偖此礼法ハ曾テ孟子ニテモ讀ミタリト云ヘハ微笑シテ之ヲ諒セリ偖食物ノ数ハ共計二十五品ヲ換ケタレ氏太抵脂気多クシテ更ニ口ニ適セス海参鳥魚蛋葛仙来ノ等ハ通事支那人側ヨリ書シテ予ニ示スニヨリ之ヲ

知リタルモ其餘名モ知ルヘカラス曽テ香港ノ李花樓ト云フ料理屋ニテ食セシ時、
ニ基タ似タリ只茄子ノ油烹ハ予カ口ニ適セシヲ以テ二三七之ヲ喰ヒタレハ好鎮台
ハ大ニ慌ヒ頻リニ取テ予カ皿ニ入タリ「シャンパン」モ出シタレ共氣ノ毒日許前ニ
散シ去リタルモノナリ食了テ妻未タ出テス予特ニ立テ別ヲ告ケントス鎮台乃チ予
カ手ヲ執テ署ヲ出ツヨリ別ニ小九門ニ入レハ大石様ノ矢
更ニ一戸アリ此門ハ即チ一所得閑門ナルヘシ戸内天ハ広キ堂數アリ鎮台予ヲ
上堂ニ置キ自ラ次堂ニ就キ前ノ如ク既ニテ其妻独歩シテ(支那婦ノ如ク小
足ナラサルハ勿論)人ニ寄ラルヲ以テ知ルヘシ筒袖緋衣ヲ着頭髪ハ我邦既往
ノ御殿女中ニ髣髴タリ中勢(セイ)ニシテ少シク痩セ品ノ良キ婦人ナリ齢ハ二十六
七ニ見タリ堂數ノ戸内ニ入ルヿ数歩予乃チ迎ヘテ之ヲ揖ス渠亦手ヲ拱シテ
予ヲ揖ス予通事ヲ以テ相逢フノ悦ト一同宴ニ預リシ礼ヲ述ヘ渠少シク羞ヲ
帯ヒテ日ク礼ヲ述時十月皆此婦ニ注キ居タリ婦ハ甚タ「マノワルキ」体ニテヤカテ
黙坐シテ退テ房内ニ入リ其有様ヲ不本意亭主ノ為ニ不平ヲ唱ヒ出サヾル者ノ如
シ是ヨリ鎮臺ニ復タ禮ヲ述ヘテ別ル
日鎮台迭テ前文ノ中門外迄来ル予乃チ此処ニテ再ヒ馬車ニ乗リ郭門ヲ出テントスル時又々
祝砲三発ヲ放テリ但シ有司二人大ナル提灯ヲ持シ予カ馬前ヲ護シテ前行スヿ十時許リ
未タ市街暗カリシカ市人ハ戸ヲ出テ予カ帰ルヲ目セリ此時已ニ九時ヲ
過ヨリ帰船後無恙シテ鎮台ハ答礼トシテ予カ船ニ来ル有司随之鎮台ハ白
銑子ノ上衣ヲ披キ短袖ノ前ノ如ク磨錆ヲ
ヌキ付ケ番ヲ是ハ上官ノ印(シルシ)ニ用ユル如キモノヘ桃色珊瑚ノ八角ノ軍(セン)
祝標ニ魯人語ヲ予カ乃チ鎮台船ノ附属官ヲシテ「シャンパン」ヲ出シテ饗
セシメタリ皆盃ヲ手ニセシ迄ヲ飲マス予鎮台ニ何故飲マサルヤヲ問ヒシニ茶ヲ好メドモ酒ニ
堪ヘス予カ飲マサルニ鎮台ノ顔ヲ覗テ遂ニ飲マザリシ
何故ヲ知ルヤト云ヒシヿヲ賞セリ其茶ノ煎方甚タ宜シカ

[illegible]

九月十九日

朝起ズレバ船既ニ駛走セリ天気晴明ニシテ風ハ東南ニ付キ大ニ暖カナリ昨日ノ如シ寒暖計ハ朝九時ニ十度ニ上リ午前十時ニ「ポヤコワ」ト云フ「カザク」ノ一小村ニ船ヲ着ケ薪ヲ積ム人ノ手真薪ヲ見ルニ皆屈曲セル柏ニシテ此辺樹木多カルヲ以テ(多ク切倒シタルニ由ルナルベシ)其価ノ高キ支那鎮ノ地ニ比スレバ殆ンド半価ナリ薪ノ繁茂スルハ此ノ如クナルヲ以テ薪ノ価ノ高キハ全ク人ノ手ヲ労スルニ由ルナリ

"付キ三「ルーブル」三十「コペーキ」ノ由但シ黒龍汽船社ハ魯商「バーベンツオフ」氏ナル者ト約束シ「ストレチェンスク」ヨリ「ニコライエフスク」迄間ニ何ノ「スタチョン」ナリトモ薪一「サーゼン」ニ付二「ルーブル」八十「コペーキ」船迄運賃トシテ五十「コペーキ」共計三「ルーブル」三十「コペーキ」ヲ拂フコニ定リ居ル由但シ伐木ヲ「カザク」等ハ「バーベンツオフ」社ノ手ヨリ伐木價ヲ受ケ

ラシテ香気落ヤシラ立ヲ自考スレハ實ニ御迷事タリシナルベシ、鎮台ハ四角ナル箱物ニ棄ル、濱城ノ出ル時ト入ル時ニ祝砲二発ツヽヲ放ツタリ予ヲ一発其数少キ八位階ニヨンナヘニ(重ネ九月十九日ニ續ク)

なり若しコンタンより上ナキ船ニテ荷如何ホキ材木多カラサル駅ニテ荷置ク時ハ四五
「ルーブル」ノ價ニ及ブト云フ
天氣朗明ニシテ岸上ノ景快ヨキヲ以テ予独リ上陸スルニ「カザク」ノ下等士官李直ヲ予
ノ護与ニ行ス村家僅ニ十七八軒ニ過ギザレヘシ人口八十人許ト聞ケリ渠予ニ居
ヘリ村ノ辺ニ麦畑数一切ナキヲ以テ「カザク」ニ問フニ五「ダルスト」モ陽テタル処ニ畑アリ
ト答ヘタリ野菜及蕃薯ハ家毎ニ少シツヽ作リ居リ
此処ニ予見ル大国ニ生ル「ポーランド」人ト共ニ「カザク」ノ富家ヲ訪ヒタル話ヲ記載
スベシ大国生野葡萄ヲ「カザク」ノ家ヲ持チ来レリ
村民ハ皆「カザク」ニシテ我等ノ船ノ着スルヤ否ヤ牛乳及蕃薯
等ヲ少シツヽ持テ来テ買ヒ手ヲ待テ居リ其様ヲ見ルニ衣服ノ貧シキハ別ニ「シベリヤ」ノ
村民ヲ甚タシトハ称シガタシ而シテ国力女共ニ赤被皆跣足(ハダシ)ナルヲモ「シベリヤ」村民
ニ異ルヿナシ男人ヨリテ物價ヲ問ニ蕃薯ハ一「プード」ニ付四十「コペーキ」麦ハ二「ルーブル」
ナリト「ベーテルソン」及其他ノ人皆曰フ「カザク」ハ兵丁ノ外ハ農事ヲ勧メ故ニ膏腴地
アレ共妻及其他ノ穀物ヲ作ルヲ力メス此事ニ魯国ノ記者モ昨年「シベリヤ」ヲ
旅行セシニ「ヘイデマン」氏モ予ニ證スル処ニテ実ニ魯帝ノ領地ニ住
ム満洲民ハ能ク農事ヲ力メ猶ホ河基多シト
午後「アムール」汽船社ノ一汽船ノ三艘ノ「バルク」ニ人夫ノ山ノ如ク積ミタル者ヲ引キ来ル
ニ逢ヘリ其故ヲ問フニ是ハ本年英ト挙ヲ開クヿモアランカ為メ「アムール」諸地方ヨリ
正兵及哈薩克并ニ一千人ヲ募リ「ウラヂオストク」及ヒ他ノ沿海道ヘ送リシカ無事
ニ治リタルニ付キ今帰ル者ナリト夕朝モ斯ル船一夏未ダ二通過セシ由甲必丹ヨリ
語レリ
午飯ノ時ノ話ニ「アムール」ハ河岸ナリトモ悪地ナリトモ一「デシヤチン」ノ地ヲ二十五「コペーキ」ノ
割ニテ九十九ヶ年間政府ヨリ借リ得ヘシト但シ二十五「コペーキ」ハ一度拂ヘハ九十九
年間ハ何ニモ納ムルノ要モナク只地ノ貢ヲ任ノ者ハ人頭税モ納ムルノ要モナク只

「シルカ」河ノ「スレチエネープ」(地名)

「アムール」「シルカ」兩河合流點

無役ハ常例ノ如ク勧メザルベカラズト比事ハ最モ要件ナレド人々ノ視小異同アルト我
為メニ通訳ヲ得ル者出程ノ事ヲ要スルヲ全ク解セサルニアリ無教育カ小解スル日語
ヨリ「ペーテルソン」氏ノ助ケニヨリ倫敦時ヨリ移セシ後遂ニ枝論百出セシヨリ改テ只比
一事丈ケヲ記スルノミ後日鎮台若クハ大憲ノ尖ノ通ル一大河ヲ此河更ハ穿鑿筆未タ
午后四時頃「プレヤ」河ノ「アムール」ニ流ル尖ノ通ル一大河ヲ此河更ハ穿鑿筆未タ
及カサル由ニテ甲必丹モ兼組ノ客モ若クハ「プラゴウェシチンスク」ノ鎮台サヘモ汽
船ニテ何里程稼ヲ得ヘキ歟ヲ知ル者ナシ但シ「プラゴウェシチンスク」府ヨリ此
河口迄ハ約二百四十六「ウルスト」許リ
河ヲ下ルヲ「アムール」ト云フ府ヨリ「アムール」ニ流ル尖ノ通ル一大河ヲ此河更ハ穿鑿筆未タ
深ク船ハ我二三里ニ至ル処甚タ多シ河幅甚タ広ク本日モ朝ヨリ日没迄ニ
陸ヲ船ハ我二三里ニ至ル処甚タ多シ河幅甚タ広ク本日モ朝ヨリ日没迄ニ
陸ニ午后四時頃ヨリ東南ノ風稍烈シク吹キ始メ船ヲ為メニ少シク「スリン」ル丈ケ始メ
細字ヲ記ス能ハサルニ至レリ両岸双方共ニ低ク遠山ノ遠ク聳ユルモノヲ見ズ

「ブムール」ニ於ケル溫泉

「ブムール」ニ於ケル驛

出岸高サ十尺ヨリ二十尺許ニ過ギス間或ハ双方ノ岸ニ百尺ニ満タサル「サンドストーン」ノ孤山立ツヲ見タリ又支那ノ岸ニ馬ノ群ヲ為セルヲ見ル是ハ勿論満洲人ノ所有ニ係ル
夕七時半頃「ミハイロフ」ト云フ処ノ荷物ニ錨ヲ抛チ繋ヒ月光ヲ藉リテ再ヒ錨ヲ抜キ駛走ス

二十日 風

今朝ハ「ヨシ」ノ澄筋中有名ナル「ヒンガン」山孤ノ間ヲ通過ス両岸ニ立テ朝五時ヲ報スレハ船ハ既ニ「ヒンガン」ノ入口トモ称スヘキ「パシカワ」駅ノ矢ヨリ両岸山ト雖別ニ称スヘキ程ノ高岸ニアラスト雖朝五時四十五分ニ「ヒンガン」峡ヲ通過シ正午「ユカテリノ」ニコリスカヤ」駅ニ泊舟シ茲ニテ家数モ三十軒許モアルヘシ李一ツアリ積ム所ハ此駅ハ出岸二十三尺許ノ高サノ処ニテ其園ニハ此辺ノ草木ヲ一覧スヘキ別ニ見ルニ足ルヘキ程ノ者ナシ矢ヨリ甲板ヘ

共ニ農家ノ構内ニ入ルニ「ヒンガン」山ニ生ズル「キル」柏ノ大サ八寸許ノモーアルヲ見ル「ルーナル」ヲ手ハテ一尺許切ラシメ船ニ持チ来ラシメリ此樹ハ「ヒンガン」ニハ多ク生ズル由其芽ハ我船ノ碇泊所ニ近キ嶋中ニ於テ摩擦ニテ火ヲ得ヘキ由ナレド泊舟僅カニ三十分間ニ過キザレバ此ヲ試ミズ「ペーテルソン」氏ハ予ノ為メニ「キュルク」樹ノ小ナル杖二本ヲ得其一ヲ予ニ恵モリ

○「ヒンガン」峡ハ東北ノ折ヲ屈曲シテ(甲地丹ノ着船地ヨリ)二十五尺ヲ「ポシカロ」駅(即チ峡口)ヨリ「エカテノ、ニコルスキ」ノ峡(即チ峡終)約壱百五十「ウラ」ヲ「ストレチュワヤ」ヨリ三「ウラデ」ヲ四リテ「ホンペエカ」ヲ六「ヒンガン」ヲ七「ポリカルポフカ」ヲ八サテ「ナヤ」ヲ九「エカテリノ、ニコルスカヤ」ヲ是リ遡航ノ深サ(甲地丹ノ着船地ヨリ)二十五尺ヲ四十八尺ヲ乗リ嶋ヲ両山ノ間ヲ以テ僅ニ三四ヲ過ギテ河幅ハ我カ自墾ノ所ヲ過テ二丁ヲ七八丁ニ至ル流ハ格別他所ヨリ急ナルヲ覚ユ其源ハ我等ノ航行ハ是ヨリ順流一時間ニ二十「ウラ」ヲ上ニテ「ラウデ」ヲ過ギレバ前モ記セル如ク朝五時四十五分ニシテ峡ノ末尾ハ朝七時四十分ニ過ギタレバ此間壱百二十「ウラ」ヲ上ルナリ(六時ニ二十「ウラ」ヲ上ルナリト云フ)

因ニ云フ「ヒンガン」峡ハ黒龍江ノ下部ヨリ露ヲ海軍ノ「コムマンドル」ヲ始メ「ポシカロ」ヲ「エカテリノ、ニコルスカヤ」ト改称セシ人ノ名ニテ前文ノ如キ数名ノ駐在ヲ置キシ所ナリ即チ「エカテリノ、ニコルスカヤ」駅ハ向氏ノ恋着セシ婦人ノ名ヲ取リ「ユツナヤ」駅ハ彼婦ト夫婦約束ノ整ハンヲ望ミテ斯ノ名付シ由又「ポリカルポフカ」駅ハ向氏父ノ墓キ「ホムペエフカ」駅ハ自ラ其名ヲ被ラシタルヨリ其他モ皆相知人ノ名等ナル由ノ「ペーテルソン」氏ヨリ聞キ左ニ一家屋ニ於テ露ノ官吏ト語リタル二人ハ居眠ヲ虎猟ノ時誤テ中ラシテ虎ニ喰ハレ幸ニ同人連ノ虎ヲ銃撃シテ免カレタル由ヲ語リトニモ此処満岸ノ山モ小ク海ニアリテ魯岸ノ海ト斜ニ相向ヲ熊虎狼等ノ屢出没スル所ナリト歩ノコヒンガン」山脈モ両山岸共ニ

虎アリト云フ熊、虎相住ミ樵（樵）ニ薪蒭ノ鍾ヲ如キ（ク）ス畢竟「アムール」ノ左岸ハ烏嗹哩（地名）ヲ以外ニハ焉ク由實ニ進ムベシ現下ニハバロフカ」ニ住ム一商ノ「ツメリ」河邊ヲ騎馬ヲ旅セシニ帥ニ遇ハシ幸シテ逢来リ其友人ハ帥ヲ銃撃シタリト

又三四年前「ウスリ」府衙ヘ白晝虎出テタル由是ハ市街ノ空言ナラデ實説ナルヘキ疑ナシ曾テ廣東新話ノ讀ミシニ或ル鎮台ノ句ニ市無盗賊帥廻衙ノ句アリ市帥ノ説一概ニ空言視スヘカラス何々

「ヒンガニ」峡ノ磨崩ハ阿憐弟ヲ始終目撃スル所ニ拠ルニ狭キ所ニテモ我ガ百間ニ下ラス広キ所ハ八九丁モアリテ屈曲ハ東南ニ転ジ或ハ西南ニ向フ知モシ難シ渡筋一直線ノ長サ我ノ七十三五ン者二ケ所モアリ短キモノニテモ五六丁ニ下ラス而シテ深キヲ江テ航過スルニハ他所ヨリモ甚タ易シトス

「ヒンガニ」ハ支那ノ「ゴビ」沙漠ノ尽処ヨリ起リ瑞滂ト蒙古ノ分界ノ山ヲ由ツル

チュドルスキー」氏ノ蒙古記行ニ見ヘタリ此山脈満洲ヲ貫キ黒龍江ノ左岸ヲ亟ヘテ「アルゲュロルスキー」氏ノ説ニ拠レハ「ウルガ」ヨリ東百三十里ニテ船ヲ支那ノ大沙漠（ゴビ）ト称シ汉前此沙漠ハ海ヨリ八千尺高カリシト唱ヘ来リシモ甚タ実ハ四千尺ニ過キス処トシテ二千尺ニ過キサル四

地アリト

シ但シ「ブリエトニック」又ハ「オルガニック」ノ地質ニハアラサルヿ明カナリ

爭不斷兩岸ノ樹ヲ見ルニ大抵柏木ノミヲシテ樺モ未タ漸ク柏木ノ間ニ點在スルニ過キス且尺餘ノ者稀ナリ之ヲ訊スルニ船ニ積ム大ニ薪ヲ汲ム爲ニ家屋及船材等ニ適スヘキ者稀ナルヘシ蔣山変ハ独リ

今朝我船「ヒンガニ」峡中ヲ過キシ時魯岸ニ一汽船ノ山岸ニ擱シテ動カサル者一隻ニ逢ヘリ「ウオルク」狼ト号スル汽船ニシテ「アムール」社ノ有リ甲必丹脚船ヲ卸シテ彼ノ船ニ赴キシカ暫クシテ帰船シ再ヒ我船ニ来リテ曰ク彼ノ船ハ「アルグン」ト云フ他ノ汽船ニ逢テ乗ヲ移リタリト云フ

虎アリト云フ熊ハ庵相住ミ（棲）蔦葛ノ纏フ如キ丈尋ヲ「アムール」川ノ
烏嘴里（地名）ヨリ外ニハ無キ由實ニ注意スベシ現下「ハバロフカ」ニ住ム一商「ブリスニン」
氏ハ曾テ「ウスリ」河邊ノ騎馬ヲ旅セシニ帥ニ遇ハシ幸ヒテ道連リ其友人
ハ帥ノ銃撃ニタオレト
又三面等前「ウスリ」府衙ヘ日晝虎出デタル由是ハ帥ノ空言ナラデ
實說ナルヘキ疑ナシ曾テ廣東新話ノ續ニモ或ル鎮台ノ句ニ市無
盜賊帥迴衙ノ句アリ市帥ノ說一概ニ空言視スヘカラス何々
「ヒンガン」峽ノ邊ハ前ニモ掲ケタル如ク險惡ノ地ニテ我カ百間ニ
下ラス廣キ所ハ八九丁モアリテ屈曲ハ東南ニ轉ジ或ハ西南ニ向フ知レサル深
一直線ノ長サ我ノ七十丁ニ餘ル者二ケ所モアリ短キモノニテモ五六丁ニ下ラス而シテ
深キヨリ江ヲ航過スルニハ他所ヨリモ甚タ易シト
「ヒンガン」ハ支那ノ「ゴビ」沙漠ノ書処ヨリ起リ瑞滂ト蒙古ノ界ヲ山ヲ由ツル

チェドルスキー」氏ノ蒙古記行ニ見ヘタリ此山脈満洲ヲ黒龍江ノ左岸ヲ趁ヘテ
瞥鎖モナク故ニ此ノ峽ヲ斯ク名付ケシ由但シ山ノ高サハ三百尺ヨリ六百尺
ヲ過ル者ナシ名實ハ「サンドストン」及「ケレイスレート」ニ似タリ「ブリエトニック」又ハ「オルガニック」ノ地質ニ
シテ但シ「ブリエトニック」ハ「サルト」ヲ含ム
少許ヲ見ス然レハ船ヲ望遠鏡ニテ見ルニアラサレハ明カナリ
峽中ノ過シ時ハ兩岸ニ樺モ木タ薪ニ伐リ柏木ノ階無屈
曲尺餘ノ者稀ナルヘシ蔭ハ松柏ヲ以テ多シ
材等ニ適スヘキ者稀ナルヘシ蔭山ニハ雉多シ
今朝我船「ヒンガン」峽中ヲ過シ時魯岸ニ一汽船ノ山岸ニ掛ケテ動カサル者一
隻ニ遇ヘリ「ウオルク」狼ト号スル汽船ニテ「アムール」社ノ有リ甲必丹卿（船ノ
卸シテ彼ノ船ニ赴キシカ暫クシテ歸船シ再ト桔槹（綱サバキノ事）駛走セリ彼船ハ氷壊（氷ノ事）ノ
出テサルヘシ船客ハ「アルグン」ト云フ他ノ汽船ニ遇テ乗リ移リタリト云フ

午后二时午飯ヶ甲昨日「ミハイロフ」ヲ「ブラゴウエスチエンスク」ノ鎮台電信ニテ「アセトリーナ」魚ヲ予ニ送ルヘシト傳シ乃チ付昨霄神戸村氏ノ船ヘ持来リシモノヲ喰フ味甚佳長サ凡ソ下三尺許丁予輩ヲ以テ魚必ス北海道石狩「テレホ」等河ニモ在ルヘキヲ思ヒ且ツ其形ヲ熟視シ且ツ背筋通リ三條ノ鱗ヲ数ヘシニ一条毎ニ三十五個アリ食机上ノ話ニ此事ヲ指出シタルニ甲忽チ丹ノ説ニハ大ナル「アセトリーナ」ハ鱗ノ数増加スヘシト云フ此説ヲ「ペーテルソン」氏及「ホール」人其氏皆一句ヲ敢テ云ハス小魚背骨モ大魚ノ背骨モ其数増減ナキヲ以テ「アセトリーナ」ノ鱗モ同シ道理ナリト論シ出タリ予側ヨリ添言シテ曰ク小児モ大人モ手足各骨数異ナラストコレト甲忽丹黙止ス但シ甲忽丹ハ勿論船中ニテモ種々ノ心得シ者ナル只恩ヒラク二私説ヲ還スルノミ予輩ニテ二十五年前石狩ヲ航道セシ日河敷ノ網羅シテヲ聴キ且ツ是ヲ考フルニ必ス「アセトリーナ」ノ同種ナルヘシ

本日ヲ暖気ニテ午前五時ニ甲板上ノ寒暑計既ニ列氏十一度ヲ示シ午後ニハ十六七度ニ上リ南ヨリ風ヲ「ブラゴウエスチエンスク」以来キワダチテ暖気ニナリシ事時此事ヲ衆ニ問フニ南ニ寄ル故ニテ「アキレデンタル」ニハアラスト甲忽丹始メ黒龍江岸ニ往居ノ人ニ慥ニ聞タリ天気ハ午前八時頃ヨリ時々霰雨アリシカ午前十一時ヨリ晴ニテ全ク好天気トナリ午后猟過ヒシ処ヲ「ヒンガン」峡以来ハ両岸共ニ山ヲ見ス或ハ極テ低ク河幅ハ十丁ヨリ十四五丁ノ処ヲ潜航長サ我三里ニ及ヘリ「ニコリスキ」附近ノ鉄鑛ニハ別記ヲ書入スヘシ鵜但シ今ニ至ル迄何人モ下ラス

夕六時半ニ水深泊毎ニ十一時半前遠ク少シク吹カレニ乗シ(月三)再ニ纜解テ馳走スルヲ夕硫泊セス処ヲ「クワレニナ」路ノ近辺ナレヨリ江ヲ本夜中ニ支那ノ松花江(スンガリ)ト魯ノ「ウスリー」ナル二河ノ「アムール」ニ落ルノ間ナル口ヲ経過スヘシ翌朝「スンガリ」河ハ満洲ノ南部ナル「サンシン」ト云ニ府ニ通シ貿易ノ一要路ヲ落ヲ聞ノ所ニ於ハ

現下「ハバロフカ」ニ住ム魯商「プリスキン」氏ハ三年前ニ此河ノ岸ヘ流船ニ貿易品ヲ積テ
重ナル繁昌ノ府ニ達シタレバ支那政府ノ妨ケヲ損セル由本年四月氏為一両
試賀買ノ為メ同河ニ船ヲ遣ハセシ由其景況ハバロフカニ着ノ上吻乱サント
ノ事ム但シ「ハバロフカ」ハ明日中ニ達スベシ
○「ヒンガン」峡ノ記事ハ「ロカテリノ」ニコルスキ」ノ鉄鎗記事ヲ加ヘテ増補
スベシ

二十一日

晴天ニテ風ナク暖気ハ朝六時甲板上十度ヲ示セリ
事輪ノ船ハ昨夜ノ南ケリ蒸シ夜来誠ニ走ルニ一路ニ斯ノ停ラテ薪ノ積
入レンヘシ其ノ際ニ甲板上ニ駐在相本薪ヲ見ルヨリ俄ニ朝起
航路ヲ見渡セバアムール山ノ両岸ハ大ニ広マリテ我ニ二十丁許ニ至ル処少ナク
而ヲ島嶼甚タ多ク両岸共ニ平原ニシテ遠方ニ高カラヌ山脈ヲ西
ニ向テ走ルヲ見ルノミ而テ魯岸ハ前ニ達金ノ漠々タル平原ヨリ但シハアムール
此辺ノ真岸ハ闊ニ松ルニ七八哩ヨリ不ル上ノ幅アリ只島嶼アルヲ以テ其嶋伐ヲ互
ノ岸ヲ為ス者多キヨリ
午後二時ヲパスカヤ」豚ヲ過ヨリ「ウスリ」地方ノ山ヲ(是ヨリ即チ「ウスリ」ノ「ホルカ」山ヨリ)
約我十三里ノ距離ニ見ル地点ヨリ「アムール」ノ一流ノ嶋嶼ノ間ヲ流レテ「ウスリ」
河ノ「カサケウチ」豚ニ達スル而テ本流ハ即チ「ハバロフカ」ト「カサケウチ」ハ
南約四五「ウヨルスト」許ヲ下ヨリ故ニ此ノ「スパスカヤ」ヨリ「ハバロフカ」ニ向テ澪筋ヲ為ス其距
離角ノ△状ヲ為セル地辺ヲ「アムール」ノ両岸共ニ平原ニテ幅ハ我ニ十四五丁
モアルヘシ船路狭ト雖モ三里モ一直線ヲ為セリ此処ノ辺ニ「プリスキン」ノ汽
船(米国ニテスラ三即チ華輪ノ船後ニアル者)一隻機械ヲ損ジテ碇泊スル者アリ
昨日ノ午ニ係ルト云フ於是甲板丹ハ本船ヲ以テ其船ヲ曳ベク縛シテ「ハバロフカ」
迄進行ケヲ約シ百「ルーブル」ヲ江テ談判整ヒ即チ曳行スル故ヲ以テ我船ハ進ミ

甚タ遅ク多分六時頃ニアラン大「ハバロフカ」ニ達スル能ハサルベキコトナリ

夕八時頃「ハバロフカ」ニ着ス晴天ナリト雖暗黒ニテ四方ヲ弁ス能ハス只岸上人家ノ燈火ヲ見ルノ頗ル高岸ナルノ知ル「イスプラウニク」及「スタール」社ノ機関所ニテ取調ヲ受ケ暫ノ海軍檣閣方(士官)某江下陸取ト記スル処ノ望真ノ裏面ニアリ等来訪スル頭取ニテ云ク本夜「ウスリ」ノ汽船ニ乗換ルトモ明日ナリトモ只貴意ニ任シ且ツ昨日解纜モ亦然リト予乃チ明朝ヨリテ「ウスリ」ノ汽船ニ移リ而ニテ正午頃ニ桟橋ノ方都合好シト答フ乃チ

「ストレテンスク」ヨリ発シテヨリ九日ニテ著船セシヲ定期ノ如ク両岸ノ黒龍江澪筋ハ黒夜泊舟サヘスル能ハス況ヤ其ノ我船ノ往過セシ処ニ於テヲヤ是ノ難キ処ニテ其ノ昼ノ難キ処ニテ甲板ノ称セシ一番汽笛モ(即チ始メテ「アムール」ヲ下リシ日ニテ達セリ)五尺余ノ深サヲ以テ水入ニ尺余ノ船ニテハ浅ト称スヘキ程ノ浅キ筋ヲ以テ水入二尺余ノ船ニテハ殆ト危ク通ルノ感アリ況ヤ二十尺ノ汽船ニテモ通航スル難カラン

又両岸ハ茅ニ富ミ水ノ清クシテ魚族ニモ亦富ム窓ニ亜細亜中ニ於テ指スヘキ一大良河ニシテ欧州ノ「ダニューブ」北米ノ「ミシシッピー」ト共ニ比較シ得ル者ナリ魚ノ数百年前ヨリ注目シテ遂ニ之ヲ富源ノ腰ニテ金ニ富ム能ハス況ヤ又況ヤ満洲ノ両都ニ通ス松花江如キ一良河モ亦本江ニ流レ込ムニ於テヲヤ

著船前水夫ヲ禁錮并ニテ十三人ニモ亦ヲ立テテ礼ヲ述ヘ甲板ニ両弟カ注意ヲ深ク謝セリ

廿二日 晴

五時半起キ甲板上ニ出ツレハ「ハバロフカ」ノ景色ハ開窓ニテ甚タ快ヨキ覚ヲ是ヨリ荷物「ウスリ」行ノ汽船ニ移ス迄汽船ハ全ク我船ニ繋キ付タルナリ移了リテ「ウスリ」行ノ船

ニテ茶ノ飲ニ決ヲ頭取ノ者カ為ニ何持小車二輌ノ持テ来リテ何方ニテモ同行セント言フニゾ者ハ頭取及甲ハ丹ト三人ニテ市街ヲ東通ヲ抑モ「ハバロフカ」ハ烏蘇里黒龍江ノ合流ノ燕尾状ノ股ニアリテ岸ノ高サ約我五十尺許ヲ下リ人家ハ五十軒ナルヘシ低岸ニモアリテ市街ハ低昂甚タシキ坂ノ上下アリト雖眺望甚佳ニシテ要害(貿易ノ為メ)ノ地タレハ尚永ク繁昌スヘシ碇舶ハ何モ一大船ヲ江ニ揚場トセリ「チロ」河ノ思ニ出ヲ登陸スルヤ木ノ階子ヲ下リ高岸上ニ達シ(他ノ処ヲモ市中ニ達シ得ルナリ)階子三ケ所ニ許ノ処ニ緑側(エンガワ)様ニ道ノ付ケ横ニ行ケル三十間許ニテ又本板ニ階子ヲ付ケ次ヲ上ニ達ス此緑側ニ始テ上レハ柏木抱ニ満ル着人頭ニ掛ル又同種ノ樹四五本モ側ニ立リ思ヒ処ニ歩ムニ甚タ快シ偖案ヲ船中ニ於テ名ノ聞キ甚シキ本年「スンガリ」ヘ行キシ一商ノフリユスニ」氏ノ家ヲ訪フニ夫婦共ニ悦ヒ迎ヘテ茶酒ヲ出セリ予因テ先ツ本年「スンガリ」ヘ赴キシ結果ト其地ノ様子ヲ吻スルニ左ノ如シ

本年再ヒ商貿易為メ小船ニテ「ハバロフカ」ヲ発シ「スンガリ」河ヲ溯リ行ケル六百「ウェルスト」ニテ「バヤンスース」府ニ達シ穀数ト皮、毛織、魚、銀等ト貿易シテ帰ル時世得ル所アリ「バヤンスース」府ヨリ二十五日ニテ「ハバロフカ」ニ帰来セリ

地理

「スンガリ」河ノ「アムール」ニ注ク口ヨリ河上ノ「サンシンチャン」迄ハ三百六十「ウェルスト」ニテ小船一時ニ六「ウェルスト」ノ早サニ進ム(同府ハ松花江ノ流入ノ「ダンチャン」ト「ユーケヘン」ノ間ニアリ人家約三千軒許リ同府ヨリ二百四十「ウェルスト」ニテ「バヤンスース」ト云フ新府ニ達ス「サンシンチャン」府ヨリ此府迄ハ小船一昼夜ニ七「ウェルスト」ヲ行ク故ニ流ノ緩ナル処ハ船底深クシテ航行便ナリト云フ同府ヨリ先キ行クヘキヤ否ハ知ラスト云フ小船ハ食水ハ三「フート」ヲ以テ此府ハ「スンガリ」河岸ヨリ十五「ウェルスト」ノ距離ニアリテ新府ト見ヘ人家モ多カラント云フ但シ「サンシンチャン」府程ハ大ナラストニ云フ

政界

「プリユスニン」氏ノ航「サン、シンチヤ」ニ府ニ達セシ付支那地方官来リテ貿易ヲ妨ケ且ツ是ヲ河上ヘ注ルヲ許サスト云ヘリ「プリユスニン」氏ハ其役人ニ向テ然ラハ此紙面ノ其所次ヲ書スヘシトテ「パスポールト」ヲ出セシニ渠ハ書ルヲ肯セス依是「プリユスニン」氏ハ然ラハ禁止ナル訳ヲ先進ニ逐ニ「ハヤンスース」府ニ達セント云フ此府ニ於テ意外ナル速ヤカナル「チヨウキー」ハ深ク「ロナルチー」ハ実ニ驚ク可キ事ナリ」「チヨセフ、ナリシヤン」人ナル者十年以来此地ニアリテ宣教シ来リ大ニ貿易ノ助ケヲ為セシ是ヨリ「プリユスニン」氏ハ此儕ノ字義ヲ持チ来リ其実事ヲ見ルニ「チヨーセフ、ナリシヤン」ト認メアレリ「チヨウキー」ハ深ク「ロナルチー」ハ実ニ驚ク可キ事ナリ」「チヨセフ、ナリシヤン」人ナル者十年以来此地ニアリテ宣教シ来リ大ニ貿易ノ助ケヲ為セシ是ヨリ「プリユスニン」氏ハ此儕ノ字義ヲ持チ来リ其実事ヲ見ルニ「チヨーセフ、ナリシヤン」ト認メアレリ「チヨウキー」ハ深ク「ロナルチー」ハ実ニ驚ク可キ事ナリ

貿易

「プリユスニン」氏ハ穀類四千「プード」餘ヲ「ハヤンスース」府ヨリ貿易ニ来リ其品物ヲ一見シ益ニ甚ク憤怒ノ余ニ向ヒニ向氏ニ若シ所在ノ粟一「プード」価八十七「コペーキ」黒麦同　〃六十「コペーキ」小麦同　〃三十三「コペーキ」裸麦同　〃七十「コペーキ」麦粉　〃壹「ルーブル」六十「コペーキ」

帝国ノ仮政策ヲ積ミ来ラサンヤト尋ネシニ答テ曰ク一事ハ事ヲ日本ノ「アムール」河筋ヲ経テ魯ヨリ貿易セントスル望ノ大ニ障ルヲ以テ帝氏ニ事ヲ浦塩港貿易事務官ヲシテ見本ヲ送ラシト約セリ

○「アンドレイ、プリユスニン」氏ハ「ザバイカル」ノ人ニテ今二十二年ニナリ齢六十許ノ老人ナリ同氏ニ仮政ノ諜リシニ仮政ハ可待モ

サレ氏「ウスリ」地方ノ「パンウセル」獣皮一枚ヲ所持セリト云テ出セリ其皮甚美ニシテ四足頭尾全ク備足セリ其價ヲ問フニ予ニ送ラントコフ予固ク之ヲ辞ス因テ二十五「ルーブル」ヲ得レト云ヘトモ餘リ氣ノ毒トハ思ハレヌニ付價ヲ二十五「ルーブル」ヲ以テ之ヲ買得タリ同氏予ニ写真ヲ得ンコトヲ懇請スルニ付懐中ニアリシ一枚ヲ与ヘ同氏亦自身ノ写真一枚ヲ予ニ送レリ同氏自光ニ姓名ヲ記セシテ甲必丹代筆ト記シレハ察スルニ字ヲ知ラサル者ノ如シ同氏ハ始メ「ハバロフカ」ヘ来リシ時ハ僅ニ百「ルーブル」ノ資本タリシト頭取予ニ語レリ多分真説タルベシ写真ニ於テ見ルヘキ如ク純然タル魯種ニシテ夫婦共ニ色黒ク髪睛黒ニシテ鼻筋高カラス殆ト人ヲシテ「ワーグーズ」若クハ「アリカト」ノ二人種カト疑ハシム然ルニ此人ノ娘ハ人ヲシテ心酔セシムル程ノ美小艾ナリ齢十八歳許出テ予ニ向ヘ予商府ノ生レナリヤト問ヒシニ然リト答ヘタリ渠予ニ園中ノ盆栽花及草花等ヲ聯セタル「ブケット」ヲ花瓶ニ挿シタル儘ヲ送ル予其器ハ留置クベシト辞セシニ固ク乞フ乃チ受ケテ之ヲ船ニ送レリ「カヨイト」ノ机上ヲ飾ルニ供セリ

「プリエスニン」氏ノ家ヲ出テヨリ市外ノ屯所（兵隊ハ三百人商府ニ常住ス）及「ミリテーレホスピタル」等ヲ一見シ（但シ時間ニ乏キヲ以テ戸内ヘ入ラス）其建築ヲ見ルニ皆丸木作ニシテ基礎ハ石ナリ商府ハ家材ニ供スヘキ樅モ柏モ石モ澤山ナリ夫ヨリ頭取ノ司レル「アムール」汽社ノ修船場ヲ訪フ「グライバンク」「ホンスマレーテ」「ポールベンク」「ホストームハームル」及「スメーデレ」等共計四間アリテ十五馬力ノ「ロコモビール」一個ニテ動スナリ河船ノ修繕ハ是ニテモ足ルベケレド汽釜ノ大修復ハ能ハサルヘシ夫ヨリシテ同氏ノ住居ヲ訪フ婦女児童皆出テ面ス同氏ハ其所持ノ「ハバロフカ」及「ヒンガン」峡ノ写真等ヲ予ニ恵セラル予返礼トシテ予ノ大禮服ノ「カビネット」写真一枚ヲ送レリ同氏ハ曾テ長崎ニ数月アリテ志賀氏ヲ知レリト語レリ稍久之「ペーテンソン」氏家ニ来レリ

夫ヨリ「ペーテンソン」氏ノ招キニ応シ J. R. Rafaloff 氏ノ園ヲ一見ス同氏ハ「ハバロフカ」ニ住ムコト十五年ニシテ現下「ペーテルソン」氏ト同社ノ「アデント」ナリ其花園ハ商府第一ノモノニテ

同氏ハ茗荷ノ外ニ樹園ノ蔬物ヲ留テ「リンゴ」、李、葡萄等ヲ栽培シ試ミタルニ皆生長セスシテ枯死スルニ於テ是ハ継穂（ツギホ）セシニ実ヲ遂ニ野生ノ「リンゴ」ニ小サクシテ酸味ノ強キ実ヲ結ヒ李ハ良ナルニ経ヲシテ現ニ好結果ノ得ラレヲ同氏ノ改良セシ野生ノ葡萄ハ三年ノモノヲ味ハフニ酸味烈シクシテ喰フヘカラス六年ノモノハ実モ稍大ニシテ味大ニ甘クナリ葡萄モ甘味増セリ「リンゴ」ハ来ル望ノ処ナリ又野生ノ葡萄ヲ以テ其法ヲ尚フニ種々ノ者其種ヘ毎年枝ヲ切リ（但シ一年ニ長生ノ節ヲ切ルヲ要ス）葡萄ノ如キモ毎年萌芽中ニ付キ二三芽ヲ明ケ残シ其餘ハ悉ク断テ而シテ毎年栽ヘ換ヘルヲ以テ毎年ニシテ実ニ沢山ニ甘クナルヲ以テ酒ヲ製セシニ鳥取府ノ役人ノ「オプレヒ」ニヨリ自由ニ製造スル能ハサルニ二年来漸ク賞賛ヲ出スニ至ルモノヽ如シ（切）ヲ禁止セラレタリトテ大ニ平ヲ鳴シテ云ク抑モ献政府ノ下ニ地ヲ開ク開拓ノ見ル能ハスト云ヒ此件ニ付キ予ハ更ニ耳ノ側テ聴キ大ニ驚キタル程事

533177

アリ此事長キ江テ茲ニ暑シ只ニ記臆ニ置キ李酒ノ製法ハ九月菓実ノ熟セシ者ヲ大樽ニツメ熱湯ヲ注キテ浸スコト上部ヲ少シノ覆ヲ遺シ蓋ヲシテ置キ其中旬頃迄ヲカシ置キ而ヲ此液ヲ漉シ去リ之ヲ味フニ味甚タ口ニ可ナリ同氏ハアムール省ノ苹果ヲ種ヲ送ラニヲ約リ予ヲ日本ノ種物ヲ送ラニヲ約スル処ハ巨大ノ大根アリト云フニ野葡萄ヲ以テ漬タルヲ話セシニ大ニ悦テ必ス試ミント言ヘリ何如ノ甲冑ナル哉氏ハ唯ニ来テ其所産ノ景色ノ写真ヲ予ニ恵ヲ即チヒカニ狭ノ景「ニコライエフスク」府対岸ニ景ノ善キ岸ニ住ノ満洲人ノ家屋及ヒ「アムール」ノ「ゴリド」人種、「アムール」冬景等ハ皆氏ノ甲冑ノ贈ニ係ルモノニシテ「パーテルソン」氏ヲ日記ノ認メ写真ヲ集ノ居ルヲ話セルヨルナレハ

午後一時帰船ス前文ノ諸商及顕取等皆来ヲ別ヲ告ケ「アレキシー」ノ甲冑モ担ヒリ其一ニ居レリ「ニコライエフ」ノ娘モ手ツカラ草花ニ来ヲ切ラ「ブケット」ヲ造リ之ヲ予ニ送リ涙ヲ面頬ニ浮ヘ

附録 本日「ハバロフカ」に於て此節網を鮭魚の見ゆる長さ二尺四五寸ありて大に肥へたり我石狩川にて捕れん者に全く同じ口此魚、鮭魚「アムール」河口より「ニコライエフスク」迄七百「ウョルスト」遠路の経て卵を生ん為に来りし者に係らん迄往々腹に斑紋ありて察するに其味「ニコライエフスク」にて捕りもの二及ばざるべき疑なし但し鮭魚「プラゴウェシチェンスク」府辺迄上ると云ふ予頃取に現下鮭魚の便大約数百尾にて四五「ルーブル」に過ぎずと雖へども此者の儘なれば帰船右大関生に聞くに船一雲りに来りし鮭八一尾にて八「コペーキ」と言ひ出でらるゝ由之を「ニコライエフスク」府に数年住の諸人に聞くに鮭の旬府辺の辺き始まれば九月中旬より終れりと其多きに驚き名状すべからず拵て小なる俵網の辺にて捕ふるも其捕獲多きに塩漬の暇なくして往々地に腐棄するに至ると云ふ隣我等の乗換へし「ウスリ」行汽船は荷物を引く為めに作りたる小船にて長さ九十尺幅十一尺食水三尺十吋ありて四十馬力ありにて「スンガチヤ」と号す「アムール」汽船会社の船にて「ハンピエルゲ」より機械其他重き部分を取寄せ而して「ニコライエフスク」府にて新建たるものなり同社は此外に「ハンカ」と号する二隻の汽船の外に「ウスリ」行為め尚同形汽船一隻あり「ハバロフカ」より出船する「ハバロフカ」より「カーメンヌイ、リパロフ」迄の間を交互往還するなり「ハバロフカ」より出船の定日は左の如し

一日　十日　十七日　二十四日

「ハバロフカ」より「ウスリ」に下りて通例の引船なれば六日を定限とするも風波の為めに遅滞することあり「オブリゲーション」にはなしと云ふ

船賃は上等客二十二「ルーブル」河の如き著船定期の「オブリゲーション」にはなしと云ふ

船賃は上等客二十二「ルーブル」中等十三「ルーブル」三十九「コペーキ」にて荷物は一「プード」に付七十七「コペーキ」割但し一「プード」とは無慮三十五「コペーキ」七十五「コペーキ」より故に「アムール」船よりも二十五

「ベーキ」費シ此船モ「アタール」船ト同シク上中下三等アリテ百等ハ荷得「デッキ・パッセンガル」ナリ其便モ「アタール」船ト同敷上等客ハ一「コヲルスト」ニ付三「コペーキ」中等ハ一「コペーキ」四等ノ三下等ハ只二四分ノ三「コペーキ」ノ割ナリ而テ船歩ノ長サハ上等ノ客ノ便ニ准ス次テ「パロフカ」ヨリ「カーメンヌイ、リバロフ」迄ハ七百六十五「ウルスト」ナリ

我等ノ船ニ引ノ船ハ常荷ヨリモ重キヲ以テ船ノ進ム一時間僅ニ七「ウルスト」許ナリ此童荷ト云ハ軍馬九十九疋ヲ大ナル「バルク」船ニ載セタルモノナリ此馬ハウラジミル地方ニ住ノ哈薩克兵並ニ大砲隊ニ用ユル為メ「サバイカル」ヨリ聚セタル者ナリト云フ如シ尤モ云フ「ハバロフカ」ヨリ「カーメンヌイ、リバロフ」迄ハ「ウラ」河ノ大ナル河ニ沿テ一ノ目睫ヲ遮ルモノナク只眸ヲ遠望セラルヽノミ右岸ニ見ユル(其ヒ岸ヲ隔ツ遠ク立テリ)「チュルカ」山ト云ヒ山名ハ知ル者ナキヨリ予ヲ警護セル「イスプラウニク」ニ問テ始テ知得タリ然ルニ雖トモ深ク隠ス所アルカ如シ漆筋ノ深サハ水夫測量セルニヨリ概ネ深サト見ヘタリ又河幅ハ十二三丁ヨリ十五六丁ニテリ船河一直線ニ長ク伸ヒ我ニ里餘ニ亘ル左船ノ岸ニ魯ノ漢民

触ヲ漫ルヲ見ル、

晩六時過ヨリ天河ニ浜テレトノ声アリ船中甚喧シ出テ之ヲ見ハ既ニ夜昏ニテ糸ニヘカラス甲板丹ニ並ニ船ヲ停メ小船ヲ卸シテ探撃全シタル見出サス船中ニウラヂオストウク」ニ赴ク一官更ノ妻共ニ甲板上ヲ駆歩クニ偶マ此船ノ艫ニ架ノミニテ綱ヲ設ケ基タ危シト人々恩ニ若ク糸ナレハ予等「カヨイト」中ニ在テ女婦モ我等ト話シ最ニ昌ク中人アリ水ニ陥ルトノ声ヲ其婦ハ下テ狂奈ノ如クサワギ立テ我等ヲ若クハ五歳ノ児ナラント思ヒ驚キタルニ二児共ニ恙ナク「カヨイト」ニ入リ来リシニゾ先ツ一ト安心シタリ婦ハ安心シタルニ拘ハラス暫時落付ク一小嬰ヲ出シテ嘆キ居タリシカ予ヲ目シテ嘆カニ歌ト言フニゾ予ハ辱ナケレド不用ト答ヘタレハ婦ハ李見生ニ勧メテ云フ是ハ非ヲ安ナル妙薬ナリトテ勧メタリ生ハ無心ニ婦ノ言ヲ「スプリヴト」ト云フ語ニ深ク

心付スレメ厚ク受ケテ之ヲ曝ケバ固ク硬砂糖ノ如クナレハ生ニ在テ心ナラズ涙ヲ浮ベタルモイトオカシ此ノ水夫ハ左船ノ燈ヲ点ズルヲ以テ車輪ノ下ニ落チテ死シ水夫等故意ニ水中ニ投ゼシメニアラザル旨ヲ公表セリ

九時「カサケウイチ」ヲ発シ泊舟スハバロフカ」ヨリ四十「ウルスト」ナリ

廿三日 晴 午前十時頃ヨリ西北風烈ク強シ

夜月ニ乗ジテ甲板ニ上レハ両岸ニ依然トシテ平原ニシテ山影ハ昨日モ見シ「チルカ」山ノ外一ノ目睫ノ遮ルモノナシ天象朗晴ニシテ光自在天晴ヲ十分許ニシテ「シベリヤ」ノ車中ト大ニ異ナリ

午前午后往還ノ船路モ支那岸魯岸共ニ低クシテ山ナク双方山岸ニ「ゴリド」人ノ村アリ渠現下盛ニ魚ヲ漁シ割ケ之ヲ晒シ以テ之ヲ旨ノ食糧ニ供セリ其法全ク石狩川ノ裏ノ蝦夷人ノ所為ニ異ナラズ殊ニ風臭ノ逆来ルト渠等ノ網船及犬ノ附纏ハ様子ヲ知ラヌ手ヲシテ深ク秋石狩河ヲ往還スルノ思ヒヲ起サシメリ況ンヤ駅葡萄等ヲ植栽シ小児ノ跣足ニテ河岸ヲ駈ケルノ等アルニ於テオヤ時候ハスベテ黒龍ノ北部ヨリモ甚暖ナル證ヲ茲ニ木ヲ多ク色ヲ存ゼル者ヲ歩キニ在リ

支那ノ一船我邦「タカセ」位ノ者アリ帆ヲ示ス我ト同ジキ形(木綿ニテ庶ニアラズ)

ノ者双方ノ岸ヲ往来シ「ゴリド」人ノ村ニ船ヲ停ムルノ附添ノイスプラウニク」ニ向ヲ渠等ハ「ゴリド」人ノ猟セシ「ソーポリ」ヲ穀類ト貿易スル者也トヲ云ク「ゴリド」人魚皮ヲ以テ更ニ庶ノ衣服ヲ製シ又其民漁ト猟トヲ事トシテ更ニ農ヲセズ我北海道ノアイノ異ナラズ渠ノ支那人ノ如ク豚尾髪ニシテ衣服モ之ニ同シケレド脆骨殊ニ高ク甚ダ下品ナル顔色ナリ

渠等我「アイノ」ト一様ニ松小ナル網ヲ用ヒテ斯ク大漁ヲナス河中鮭魚多キヲ知ルベシ予昨夜甲板上ヲ歩セシ時鮭魚ノ躍テ水上ニ飛ビ出ルヲ目撃セリ魚ハ岸ヲ距ル凡ソ二十「サージン」ノ処ニ在リ船ハ岸ヲ距ル凡ソ十「サージン」ノ処ニ在リ

馬ノ秣草ヲ積込メリ

午後四時風止ム然レドモ暖度ハ十度ヨリ下ラズ夜ニ入リ漸ク寒ク十時ニ五度トナレリ

九時ニ「ウエニコフ」ト云フ探ニ泊ス電信局アリテ家数モ五十軒アリト云フ電信局長ニ逢フテコノ辺「マンシュウ」人モ住ミ居ルヤ魯人ト雑居スト雖トモ夕満人三四人焚火ノ側ニ居ルノ見ルニ皆衣冠結髪色ヲ基タ下品ナリ然ト支那人ト骨相異ナルヲ弁シカタシ電信長又云フ「ゴリドー」ト満人ハ五六百ニ言値ス又云ヒ人ハカラズ「マルスク」ニテ魯次各ヲ越シタル空気清浄ニシテ冬日三十度ノ寒ニテモ日光明カニ昼ハ霧深クシテ咫尺ノ辨スベカラストゝ

本日昼過ヨリ「ウスリ」河畔我五六丁ヨリ十三四丁モアルベク一線ノ澪筋ハ往々我ニ里半餘モアリ斯ク屈曲少ナキヲ以テ大ナル引船ヲ連レ行キ得ザル両岸共ニ平原クリシカタ夕六時過ヨリシ魯岸ノ方遠ニ山ヲ見ル

本日ハ午前四時ヨリ午後九時迄ニテ僅ニ壹百零一「ウヨルスト」ノ航ナリ故ニ時間僅ニ六時ヨリ迄ニ過キス大ナル「タランタス」ニテ泥濘中ヲ行クニ均シ

本日雨岸ヲ見渡スニ樹ハ河柳類多ク多思リニ巌迄有用ノ材木トナスベキ木ナカンベシ平地ニ芦茅生セリ

同ニ云フ「ニコライエフスク」府附近ハ有用ノ大材ニ富メリト雖政府ハ外国ヘ輸出スルヲ禁ズト

○舟所ノ焚火ノ周囲ニ皆ナ満人ノ中一人我等ノ眠ヲ胸ノ見ハシ火ニ向ヒヲ取リ又後背ヲ裸シテ火ニ炙キ(ヤク)(カヘシテ)引抱(ヒキカカヘ)着ヲ暖メ(アタヽメ)猶伴(ナホ)タル様ハ王莽(ワウマウ)ノ乱ノ時ノ魯ノ水夫ハ漢我等ノ前ヲ憚カラサルヲ咎ムル積リニヤ冷笑シナカラ火ニ負ケ漢ヲ火ノ方ニ輾近セシムルニ漢基タ不平ノ色モテ起キ直リテ再タヒ故所ニ踞スルヲ驕レル「オラシウータ」ニ基タ相似タリ

廿四日　快晴

朝五時解纜駛走六時甲板上ニ出テ寒暖計ヲ見ルニ氷点上四度タリ夜ニ三時頃ニ雲氷点若クハ氷点ニ二度トナリシナルヘシ夜来寒気ハ部屋ニテモ

覚へ乍朝来色織襦袢一枚ヲ重ネ、両岸ハ拂暁ヨリ立ニ少シク高キ丘ヲ為
シ柏樹茂生シ、朝十時頃引船中ヘ魚一尾躍入リ目ノ下壱尺六七寸ニテ
甚タ太トクタルヲ猶ホ鮭ノ如ク只鰡ノ甚タ細カキヲ「トスタロフ」ト唱ル魚ニ
十一時頃ヨリ両岸共ニ又六七尺ノ高サニ遡ル時ニ乱石ノ止ミ水面席ノ如ク島
嶼処々アリテ景色甚佳ナリ、例ノ如ク甲板上ニ出テ見タルニヨリ「カヨイト」ニ下リ時ニ
筆記スルニ「カヨイト」ハ不相替彼人ノ婦ニ市川子ト「カルタ」遊ビニ耽リ甚側ニ小児
二人不断鬩シ居リ雷ノ其声ノ耳ニ喧シキニサヘ又時ニ机ニ肱ヲ叱ルニ渠
「カルタ」ニ身カヽレハ小児ヲ嗾ケテ傍ヨリ婦ノ失策ヲ誘ヒ「カーレルイワノウチ」ト叫
ニ家ヲ付ケ呉レヨト、「カーレルイワノウチ」ハ夫ノ名ナリ、好人物ニ相違ナキ「カーレルイワ
ノウチ」ハ書ヲ妻ノ側ニ積ミナカラ騒ヲ制スルニ「チスプリーチ」ノ不ナカラニヨリ噪キ
依然断続シ大ニ予カ細字ノ日記ヲ認ルヲ妨ケリ加之無心ノ無邪輪モ小児ノ
所為ニ似テ人ノ細字ヲ書スルヲ好ニサルヨリ茶何セニ進ヒ「タラタラ」中ヲ日記ヲ
書センヨリハ遥ニ愈リ以ニ騎児ノ中五歳ノ方ハ書ヲ常ノ児ノ如ク嗜キヲ庶ハ「ママ
ノヽヽ」ト啼ケテ実ニ歳ニ似ヌ啼虫ヨリ出ル声ヲ次ニ生テ四ヶ月ニナル嬰児モ「アンセレモ
ニオーブ」ノ「コンセルト」ヲ始ルニ至リ予ハ昨夜モ時ヲ目ヲ覚シタリ時ヲ
ハ定メ人ノ眠ヲ妨ケレトモ止リタルニ非ス遥ナレト思ヒテ又ヲ覚ヘス眠リ断クヨリ
ナルヲ以テ昨日ノ記ヲ補記スル能ハサル出来ヲ他ヲ甲
板ノ舳路ヲ誤リテ渉瀬ニ乗リ上ケタルヲ前行モ後行モ如才ナク「ポスタ」モ
二三分間ハ船動カサリシカ古年ニテ動キ出シタリ時ニ十一時四十分タリ衆姓メハ頻ニ
眉ヲ顰メレカ乍テ又眉ヲ開キテ甲板上ヲ下リテ常ノ居所ニ就ケリ此ノ小「アキニデ
ント」ノ始終遠ニ揣カラテ自若トシテ食事ヲ為ニ居リシハ引船ノ甲板上ニ在ル為
ナリシ

午後モ風向相ヲ稍ヒヲ両岸ノ景依然タリ只雪岸方ニ二三「ヴヲス上」ノ隔ヲ
山ヲ又「テト」人ノ村ヲ処々ニ見ル我船其村ニ相近キ処ヲ遥ニ眺望遠鏡ヲ以テ

諦視ゑこ家送ハ濶汚人ニ類シ粧塵ヲ以テ壁ニ塗ケ故ニ外面ハ全ク我邦下等ノ農ノ土蔵ノ如シ屋根ハ茅ヲ葺キ吹キ飛ス為メ家ヲ一周也大ニシテ北海道ノ蝦夷ノ風ヲモノ遂カニ偲ヒ人物ハ男ハ豚尾髪ヲ垂レ支那人ニ異ナラス婦ハ総髪ヲ真中ヨリ分両個ニ折(ママ)テ後ニ垂レ下ケ全ク蒙古服ノ風ニ異ナラス面額ハ真平ニシテ頬骨高ク鼻低ク時ニ稀ナル黒髪ニシテ「バールド」生セズ(ママ)チナルハアリ目ハ小ナル方ニテ一ニヲ云ハヽ蒙古人ニ全ク異ルヲ見ズ渠ノ家及其近傍ニハ吠ユル犬数頭アリ其物置ノ如キモ称スヘキ者ハ嫩葉ノ物置リ或ハ全ク仮製ナレド往々粗製ニシテ壁ヲ塗レルモノアリ鶏ハ如才ニシテ木架ニ乾シ置キ頭ト中落(ママ)トヲ煮テ喰ヒ耕ハセザル由ナレ共本日見ル所村ハ家ノ側ニ雑菜ヲ植エ周ク之ヲ中ニ何ニカ作リシ者ノ見受ケラレ恐ラクハ某ノ蕃薯ナラン此辺地味ハ全ク我北海道石狩河岸ノ類ニ穀類及ヒ麻其他ノ物ヲ適スヘキ疑ヒナキ所ニ只苗多ク茅屋ノ陽柳等ヲ稀ニ

午後五時カヾロフ[illegible]ニ船ヲ停ヲ[illegible]ノ種ノ柏木ヲ此[illegible]ノ大隊長及電信長其ヲ等ノ訪ノ屋数六十軒アル由岸ノ高サ十五尺許ニシテ西ノ愛ノ村ハヅレニ一高山(三十丈許)アリ村後ニ廻レ平地ニ出ル西一里南北ニ若干里長キ開カレタル一好地ヲ等銃ヲ携ヲ上陸シ二十分間許山麓及灌木間ノ翠ヲ[illegible]ニ山禽ニテ打ツヘキモノナシ因テ帰船ニテ釣ヲ垂レニ「タナゴ」ニ似タル五六寸ヨリ八寸許ノ魚(四ヒトヒラ)ヲ釣ル無数晩餐之ニ味甚タ我邦ノ[illegible]ニ似タリ此辺ニテ鮭魚ヲ獲ル大サ凡ソ一尺七八寸ノ者一尾ニテ五「コペーキ」ヲ[illegible]ニテ明日ノ午飯ニ供セント命シ置ケリ

本夜一叶ニ泊舟ス魯岸ニハ偶樹林ノナキヲ以テ支那ニテ[illegible]ヲ横置キ前ニテ船ニ積ニ木ハ此辺ノ支那ノ林ヲ伐リタル者ナリ

廿五日

朝五時半ヲ鐘ヲ撲ヲ事起ヲ甲板上ノ寒暖計ヲ検ルニ八度ニテ甚タ暖リ

時に天気曇り雨氣アリ「ウタリ」河幅ノ廣キト島嶼ノ多キト落筋ノ長キ等スベテ昨日ニ異ナク午前雨降ル十一時ニ至ルニハロフスキ」ト云フ孤ノ距ル四「ウルスト」許ヲ前ノ山下（魯岸）ニ船ノ泊シテ薪ノ積ム時ニアラン社ノ汽船ハンコウ号上流ヨリ来リ我船ノ引船ヲ曳クトナリ是レ事ヲ為メ故意ニ引船ヲ自任セントテ奪シ由ナリ是ニ於テ我船ハ是迄ノ重荷ヲ離シ纔ニ十二里（ベルスト）ノ早サトナリタリ午後魚類ヲ船側船後ニ躍ル孤アリ者勢時間ニ五尾ノ多キニ至ル是レ我船ノ車輪ノ猪ニヲ見テ大魚ノ色ノ遠逐ト誤リテ水上ニ躍出セリ其状サケ鮭魚ニ似テ実大サモ亦日下一尺六七寸許ノ人之ヲ「ゲダ」ト称ス「ゲダ」ハ形モ味モ共ニ異ナル処アリ信シ難シ午飯ニ此ノ鮮魚ヲ煮片ニ切リ三倍酸ニ為シオニオニノ和ヘ食フニ一個ノ好下酒物タリ但シ魯人ハ奇ナ料理トシテ喰ラフ又昨雪降塩ニナシ置キシ鮭魚ノ腹ニ油氣阿ニ少クシテ北海通ノ鮭ヨリ味美シ

是迄ハ一千「ウルスト」程黒龍江口ヨリ来ル心者ナリ

午後天気晴ル両岸共ニ低矮ノ河幅大サ及ニ落筋ノ長サ共ニ昨ニ異ナラズ

ニテ広ク且ツ長キヲ以テ我三里半ニ至ルニ英晷六時日没ヲ見ル乱光悩モ我

十有下漸ニ似テ少シク昏ヲ覚フ両岸樹木ヲ指差ス毫色ノ黙ヲ着ケ

容易ニ辨ジ難シ左船（即「ウタリ」河ノ右岸）ニ「イムヌ」ト云フ一大河流アリ此ノ河幅我ニ半

丁許ニ過ギ既ニテ又常船ノ五六丁ヨリ八九丁ニ狭ク此処ヨリ少シ前ヨリ支那

岸ニ多クノ魯人ノ家ヲ満ノ家ニ三軒アリテ河岸ニ漁スル家作ハ魯人負民ノ家ヨリ

モ外見ハ美ナルニ似タリ夕七時「ガラスカヤ」ト云フ孤ニ泊舟スルノ予定ナリ

一両次目撃セリ大サハ

夕八時半頃「クレスチ」ト云フ孤ニ泊舟スル予ハ見氏ト船ヲ登シ魯人一名ト共ニ登

陸シテ「カザク」ノ家ヲ訪フニ亭主ハ流船ニ薪ヲ搬ビ留守ヲシテ婦及ヒ息子

ハ畏シテ出ヅルヲ以テ小児ニ銭ヲヤルヲ以テ遂ニ近ツカシメリ既ニシテ亭主帰来ル渠

云ふ事ハ千八百五十九年ニ「ザバイカル」より遷サタリト雖モ此地ニ烟及家畜ノ程所持セルヤ又作物ハ豌豆ト荳生ノ食物等ノ尚ニ若ヘテ云烟ハ十「デシヤチン」、牛ハ足、馬六足ノ所持セリト雖モ此ハ「ザバイカル」ノ故郷ニアリシ時ハ馬十六隨テ富民ナリト云ヒシニ漸ク零ニ至リシ也、牛二十頭其外小家畜モ多ク所持セシ次ニ肉食ヲシ隨テ豊カニクラセシヨリ然ルニ移住以来ハ口分ノ粟トナレリトテ甚タ感慨ノ口筆アリ漸ク最初遠慮ヲテ一言モ発セサリシカ漸ノ故郷ヲ思ヒ出シ「ヤリツア」黒麦ノ種数ニテ粒小ニ此地ノ烟ヲヨク肥シ作物ハ黒麦冬ハ「ヤリツア」黒麦ノ種数ニテ粒小ニ「カルトッフル」「リバ」等作ル麦豊年ニハ一「デシヤチン」ニ付百「プード」ノ得ニアリシヨリ年ニハ十「プード」ニ過キス平均四五十「プード」ナリ「ヤリツア」ノ方ハ皇麦ヨリモ遥ニ多ク来ル肥ハ全ク用ヒス二年位ニテ地ニ代ヘテ種ニ云ヒトヲ入レ此地ニハ密アリトテ家婦ハ黒「パン」ト蜂蜜トヲ出セルヨリ之ヲ尚ニ尊ビ云ヒ家ニ富ノニアラズ比辺ノ家ニ生ル白樺ノ朽穴中ニ巣ヲ造リ取ルヲ以テ本日白樺ノ伐リ倒シヨリ密壺ノ「プード」余ノ得タリト雖モ尚ノ密ト蜂ノ何ヤ蜜ハ尚ニ沈ミ蜂ハ浮ブト云フ其ノ価ヲ尚ノ如左

蜜 一「プード」　七「ルーブル」ヨリ八「ルーブル」位

蜂 一行　四十「コペーキ」

予又食物ノ尚ニ通食ノ魚黒「パン」「カルトッフル」「リバ」等ニテ肉ハ祭日ニ食フノミト又塩ハ何方ヨリ得ルヤト尚ニ大村落ヘ宿ヨリ「ガザク」移民ノ為メニ設ケシ塩蔵アリ此ヘ赴キテ買来ルナリト山猟ノ為ヨリ尚ニハ皆「ツーホリ」住マストノ若ノ茶ハ磚茶ニテ飲ムヤ迎モ「ハバロフカ」辺ニ同ク巨大ナル大根ヲ産ス予其小ナル者ヲ少シク和ニテ飲ムヤ迎モ「ハバロフカ」辺ニ同ク巨大ナル大根ヲ産ス予其小ナル者（径四寸五分許）一ヲ得テ試ムルニ「カブ」ノ如ク繊密ニテ空（スイ）ナシ味佳辛味十分アリ、家ハ丸木製ニテ「アレーナ」ト云ノ樹ニテ作ル天井ニハ土ヲ少シ載セタリ壁ハ白堊ニテ塗ケリ白堊ハ近辺ヨリ取来ルナリ予「ベチカ」ヨリ一見スルニ把ニテ若間

(寝間、座間トモ名付クベキハ一間ヲ枚ヲ仕切タレハナリ)ニテ九ル二娘二子息一人ノ外ニ妻ト老婆一人アリ家具トテハ木製ノ粗末(昧)ナル風床外ニ何モナク基タ貧窶ニ見エ子息ハ親ニ似テ顔色正シク丈高ク好男子ナリ歳ハ学歳ナヤト問ニアトズサリシテ居ヘス名ヲ高ク云ヒ進リ亭主側ヨリ言ヲ白ク八歳ナリト女房ヲ内ヨリ言ヲ白ク十歳ナリト一見ニテ実父母ノ従ニ斯ク迄ノ無周ナル小豚児ノ自ラ其歳ノ知ラルモ深ク異ノ足ラス思フニ此ノ児ハ十二歳許ナルヘシ予側ニ来レト云ヘ共来タ曾テ高貴ノ人ニ面セシナキヨシテ斯クオビヤカサレリト或ハ甚タシク予ヲ又魯貨ニルーブルヲ亭主ニ与ヘ待遇ノ礼ヲ尽ヘ并ニ窓蠅少許ノ求メ夫婦共ニ式ニルーブルニ驚キ先ツ体見待タリ老婆ハ大根ヲ予ニ与ヘ前ノ飢児ハ

予ノ来ニ因テ白亜ヲ採来リ亭主云ク此ノ辺ニ於テ是予ノ採ホニ銘ヲ持タシノ燭ヲ提テ夜中此ノ如ク辺キエルク」樹枝ヲ手ニ於テ是予ノ採ホニシテニ根十分ナリシヲ江ヲ棄テリ

同云ク此辺海難ノ稀ナリト雖然ノ慶ハ出テ家蓄ヲ賠フトノ又云ク本日洞舟セシニテニハイロフスカヤ」辺ニ住ム一カザク」酪ヲ虎ノ為メニ所持ノ馬五疋迄奪去ル人ヲ為メニ之ヲ官ニ訴スル官依テ八十ルーブルヲ与ヘリト

廿六日　快晴晩方少曇

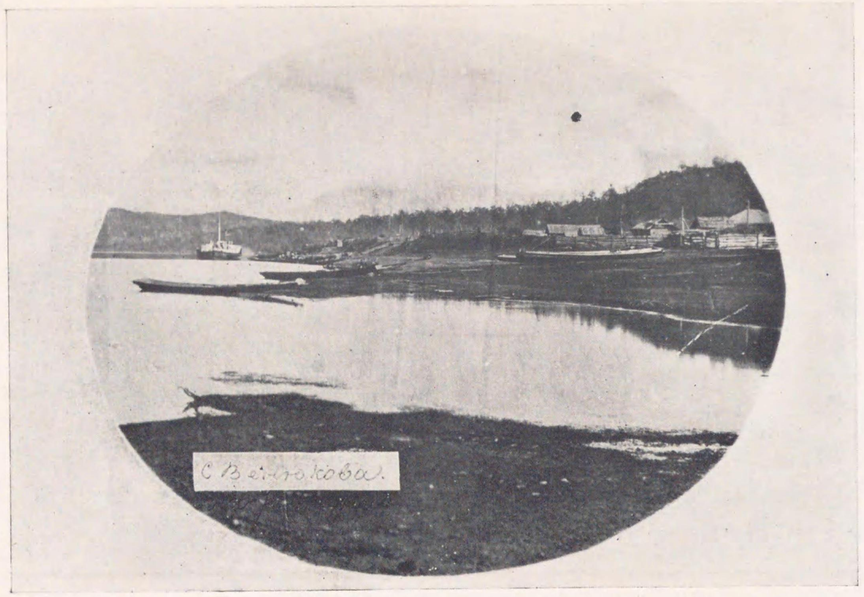
拂暁投錨駛走天象朝晴若気第五ノ七時甲板上ニ出テ視ルニ「ウスリ」河幅略ト異リテ我吉丁字許ニ狭ク左右ノ岸ハ皆ナ渡筋ノ長サ十丁ニ過キサル者アルニ至リ然ルニ両岸ノ景ハ東ニ手原ニテ四方ノ遠山岸ノ方ヨリテ高山ノ胤蛻蛇スルヲ見ル察スルニシホタアリニ山脈ナルヘシ之ヲ甲必丹及附添役人ニ問フニ誰モ知者サレ西年「スンガチヤ」河ノ水内スリ江ノ流入ノ際ニハスンガチヤノ水濁リ(マハンカ)湖ノ

湖キト「スンガチヤ」河岸ノ粘土ノ前為ナルベシ」ト云ヒ辺河水清クシテ到底色ヲ今テリ
既ニシテ少キ河ニ左舷ニタル我船ハ「スンガチヤ」河ヲ又ル「スンガチヤ」河ハ左右其他
ハ幅僅カニ我ガ十間ヨリ十五間ニ過ギス而シテ屈曲ノ極テ甚シキハ躑躅間ニ太陽
ヲ前後左右ニ見ルヲ以テ知ルヘシ宜ナル哉八字河ノ名ア其屈曲モ極テ短ク
去抵我カ壱丁半許ノ常ト甚シキヲ之ヲモ短キ処アリ只濃筋（即チ全河）
ハ十二尺ヨリ浅カラス（冬トシテハ十二三「サーゼン」深サナラン処モアリト云フ）両岸ハ其ニ
平原ニシテ支那ノ方ハ尚低シ魯岸ノ方高サ十二尺餘ノ処ニ「スタンチヤ」アリ
柳モ「スンガチヤ」河ノ濃筋ハ二百七十五「ウヨルスト」ニシテ里路ハ僅ニ九十「ウヨルスト」ニ
過ギスト云フ之ヲ以テ其河屈曲ノ甚シキヲ知ルベシ予ハ未曾テ斯ノ屈曲
甚シキト「深キ小河ノ見シテナシ〇午前十一時「ブーセ」ト云フ駅ニテ（「ウスリ」河岸）ニ
テ瀬脇子ノ電信ヲ得タリ
夕七時半暗黒ナルヲ以テ泊舟ス水去等皆前ノ如シ

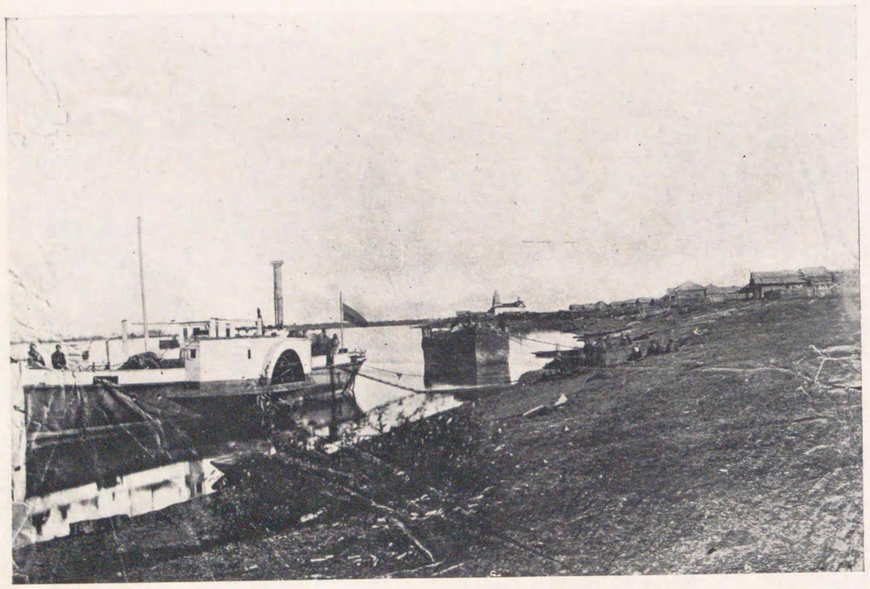
ニ釣レリ

廿七日

朝五時半鏡ヲ甲板上ニ置テ寒暖計ヲ験スニ零下三度ニ下リ両岸ノ
低キ傾ニ三尺過ギス河幅水ニ垂ルト甘ノ余ニ過ギス而シテ高キ処ハ
ヘキ者モ仰見ル天晴ニ就鳥高ク飛ヒ人烟ハ両岸共ニ之ヲモ見ス如斯
事早数ヨリ夕九時半「ハンカ」湖ヲ距ル半里ノ処ニ至ル迄更ニ変ル事ナシ
「スンガチヤ」ハ斯ル異常ノ屈曲ニシテ如此河幅七間ヨリ十三間ニ過ギス而シテ
個ノ舟並ヒ行ヲ能ハス一人行通ノ甚シキ処モ出来ス引舟モ逆潮ニハ幸フシテ僅
ニ行ヲ得ルモ順流ニハ猶ホ舟ヲ以テ河ニ「オラデオストク」ヨリ
黒龍江迄南ノ助ケヲ為ス通セント欲スルニ
テ鉄道ヲ敷ク為メニ通セサルヘシ又魚屋ノ方ニテモ沼地ニヨリ次
者ノ説ヲ聴クニヲヤハ膳備ノ客ニ



「ウエニユーコーフ」ノ黒龍江砂洲



「ウスリー」河上ノ「コズローフスカヤ」驛

ニ祀ル処ノ多九時ニバンロ湖ノ出口支那岸ノ方ニ舟ノ繋キ汁新ノ種ニ而
シテ風模様ヲ待ツ
此地ノ附近ニ住ノ魚人一名来ノ云ノ一老「アイヌ」ノ水ノ波ルノ見テ之ノ捕ヘ
多ト雖モ其獣ノ貴ヲニノ間ヒシニ三匁ニ貴ラレ之ノ即チ貴テ之ノ二
多夫ニ托セノ黒毛多ノ且ツ稀ナル老「アイヌ」ナリ
廿八日快晴
朝五時抵錨「バンロ」湖ニ入「バンロ」湖ハ甚ノ浅キ湖ナノ汉テ波立ツノ常ニ
甚ノ敷キ舵取ノ水深キ僅ニ二「サーゼン」ニ過キサル由

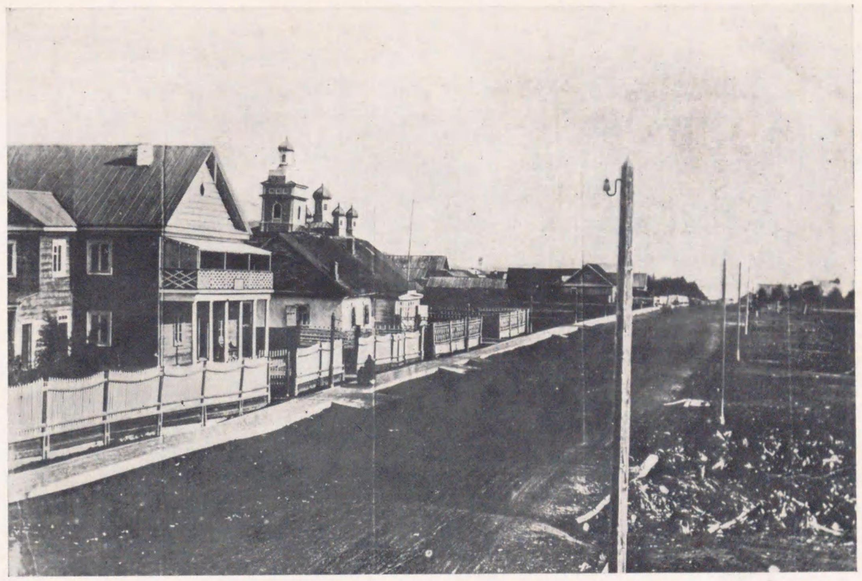
（但書者推スルニ
前記通リ廿八日朝五時抜錨「バンカ」湖ニ入リタル所ニテ揚筆ヲ採ルアルニ大型帳表
紙ノ裏ニ左記ノ文字アルト旅費明細書トニ因リ推スルニ「バンカ」湖ノ横断西南
岸ノ「カーメニルイ、ボロー」ニ着キ必ヲ馬車ニテ独走暁八時過キ「スツチナキ」
ニ着茶ノ飲ヲ夫ヨリ「ウナヨースナヤ」「ヴレビンスカヤ」ヲ通リ

二十九日

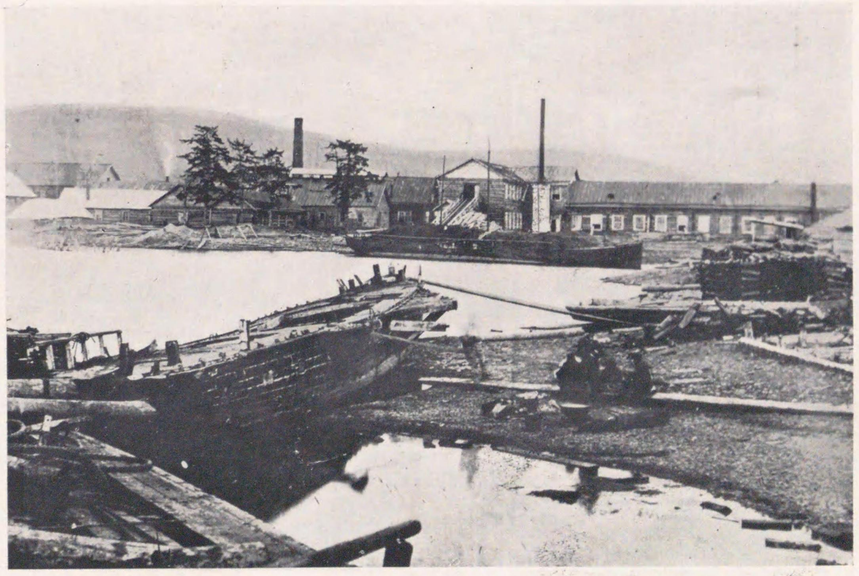
朝五時「ニコリスカヤ」着「バラノフスカヤ」ニテ顔ヲ洗ヒ茶ヲ飲ミ「ラヅドルナヤ」
ニ至リ同ジク「スイフニ」汽船「スイフニ」号ニテ十二時十五分前ニ「スイフニ」河ヲ
独走スルコト五十五「ウヨルスト」ニテ「レチノイ」ニ着式少憩三時十五分軍艦「アブ
クス」号ニ乗移リ三十「ウヨルスト」ヨリ航海シ五時半河ラヂオストック」港ニ着シタ
ルモノナルベシ

三十日　浦塩滞在

十月一日　浦塩滞在



「ニコラエフスク」ノ大通リ



「ニコラーエフスク」ニ於ケル機械工場

十月二日浦塩出帆同四日夜北海道小樽港着、夫より札幌に至り逗留し
再び小樽に引返し、銭函に行き小樽より汽船にて箱館に出で十月十九日に箱
館より出帆同二十一日夜海路横浜に着港同夜直ちに東京に帰りたるも也

左記（大型帳表紙の裏）

クマラ河　支那ウスリー河の子ー河ー人未詳　スカラカルサコワ
ボヤコワ村

十八里
モー
二十八里
フスウレチナヤ　晩八時過着茶
十六
「ウチョースナヤ」二十五
「ツレビンスカヤ」
十七
「ニコリスカヤ」
廿九日朝五時着
同日
十五バラノフスカヤ」顔を洗と十六
「ラヅドルナヤ」「スイフ」汽船「スイフ」号
茶を飲む
三時十五分半過「アブレックス」号に乗移り
五時半
「ウラヂオストック」港着
「ラヅドリナヤ」より「ナイ」迄五十五
「ウルスト」
海上三十「ウルスト」
「ウラヂオストック」迄

一、九月三日の条参照
「ブリヤート」蒙古人言語も人種も全く一なり

蒙古語

「ブリヤート」にては「セレゲンスク」邊を「セレンゲ」迄又蒙古語に異なる甚だ多く互ひに相通難きアルに至ると云ふ

「ブリヤート」書きしに非ずして「ブーリヤート」なり

○何と唱ふや		ヤモルチレテイ	
此河		イチイヨホン	
此山		イチイハダ	
村		セレウニク	
汝歳なや	タンデフデイ	ナフタイ	tandei gdei nagtei
十分なり		サダア	
今一次		バレキテイ	
汝子か		タナイフブン	
汝娘か		タナイバツダン	
東道主人		ハヂヤン	
甚可愛		シゲイドルタイ	
今日		ムヌーウドル	
明日		ウグーロ	
昨日		ウスグードル	
朝		ウドルイ迄ニ	

夕　ウドシュー
天気　ハイヒン
月　サラ
時　サク
湯　ハルンヲホ
肉　ミヤハ
米　語ナシ
汝　タ

帽子ヲ冠セヨ　マラハイムデ
年　ゾニ
日　ウヅル
茶　サイ
パン　talg
魚　ザガグン
予　ビ
此人　イチノン

千八百七十五年三月二十二日「ゴーロス」ニ載ス

千八百七十四年「アムール」地方ノ事ニ付テモスコブ氏ノ報告ニ次ノ如ク載セリ「ニコライエフスク」ヘ来リシ外国船并ニ土艘、魯船ハ軍艦、外一艘モ未ダ外国船ヲ輸入セシ諸品ノ外ニ「アルコール」ハ一百五十六百八十「ウェドロ」并ニ名「キヤーメル」「ジン」「シュリコルヂヤル」「ビットル」「ウヰスキー」ハ并セテ一千六百二十八「ウェドロ」、「ウラデオストック」ヘハ「アルコール」三千六百五十八「ウェドロ」其外強キ飲物ハ十一月迄ニ三百六十「ウェドロ」輸入セリ、「アムール」河「ハバロフカ」ヨリ「ニコライエフスク」迄ノ人口（外国人ヲ除キテ）男女并セテ八千百五十人、但シ外国人数ハ審ナラズト雖モ数ヲ多カラズトセバ

同年作物ノ出来如左

冬麦ノ種九百八十七「プード」ニテ
夏麦、種四百三十八「プード」ニテ

貳千八百八十四「プード」ヲ得タリ
壹萬四千五百二十「プード」ヲ得タリ

馬鈴薯ノ種三千七百九十「プード」ニテ
一体内年ニ不作ノ為不足ノ分壹萬五千四百「プード」ノ麦ノ他所ヨリ輸入セリ
○千八百七十五年四月廿四日「ゴロス」ニ左ノ事ヲ載ス
「ウラヂオストック」ヨリ電報ニ曰ク三月二十九日魯曆ニ海路開ケ初メテ船ハ石炭ヲ積来リシ
日本ヨリ船ニ名ヲ「コケット」ト号ス

記

魯都ヨリ浦潮港迄
旅費総計高
一　魯貨三千貳百八拾六ルーブル六拾壹カペキ
此金千九百六拾八圓○三銭
但金壹圓ニ付
魯貨壹ルーブル六拾七カペキ替

魯都ヨリ本邦迄
荷物運搬費
一　魯貨七百六拾七ルーブル
此金四百五拾九圓貳拾八銭壹厘
但前同断

小樽港ヨリ東京迄之旅費

金七拾三圓三拾六錢七厘五毛

三口

合金貳千五百圓六拾七錢八厘五毛

右複本全權公使ヨリ差出候旅費総計書面之通有之候

明治五年壬申廿三日彼得堡府出立東西西伯里通過九月廿九日浦塩港着迄ノ諸入費左之通

一 弐拾二「ルーブル」　「ペテルブルグ」ヨリ「モスコワ」迄一等上等汽車一人分

一 拾五「ルーブル」　同二等汽車一人分

一 弐「ルーブル」　同汽車「コンドクトル」へ

一 四拾五「ルーブル」十「コペーキ」　同手荷物等運送賃

一 四拾「コペーキ」　荷物取扱人二人へ

一 壱「ルーブル」五十「コペーキ」　「クリン」駅茶代並ニ雑費

一 壱「ルーブル」　「モスコワ」府着ノ節荷物取扱へ

一 七「ルーブル」　「ウラジオストック」へ電信料

一 壱「ルーブル」　二橋書記一等見習へ御用状差立料

一 弐「ルーブル」　「モスコワ」府帝室案内者へ

一七拾九「ルーブル」
一拾弐「ルーブル」
一四「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一五十「コペーキ」
一拾弐「ルーブル」三十「コペーキ」
九「ルーブル」二十三「コペーキ」
一拾九「ルーブル」二十五「コペーキ」
一壱「ルーブル」
一壱「ルーブル」三十「コペーキ」
一壱「ルーブル」五十「コペーキ」
一壱「ルーブル」弐拾五「コペーキ」

「モスコワ」府「ホテル」諸掛（十月二十七八九三日合四泊之内別紙）
同所「ガルソン」及ビ下婢共へ
「モスコワ」「ホテル」荷物取扱人並ニ駄者へ
同所入浴料
「モスコワ」停車場荷物取扱人へ
「モスコワ」ヨリ「ニジニノウゴーロト」迄蒸汽車一等一人分
同二等汽車代一人分
同前文荷物運送賃
「モスコワ」ヨリ「ニジニノウゴーロト」迄警衛兵一人へ
「ステーション」ニテ食料
「ニジニノウゴーロト」雇ヒ馬車代
同所荷物運送人足賃

一四拾「コペーキ」
一四「ルーブル」
一弐「ルーブル」五十「コペーキ」
一拾九「ルーブル」三十五「コペーキ」
一三「ルーブル」五十「コペーキ」
一弐「ルーブル」三十八「コペーキ」
一三十八「ルーブル」
一壱「ルーブル」九十「コペーキ」
一四「ルーブル」八十「コペーキ」
一拾三「ルーブル」
一拾「ルーブル」
一弐拾八「ルーブル」四十「コペーキ」

同荷物運送人足へ
同所雇ヒ馬車
同所入湯代
同所「ホテル」上等一人分掛（七月廿九日三十日）
同下等二人分
同所小使共へ
途中賄食物
同茶及ビ砂糖
途中食物賄へ
「ヨルカ」河蒸汽船一等一人分
但シ「ニジニノウゴーロト」ヨリ「ペルム」迄
同二等一人分
同荷物運送賃

一弐拾四「ルーブル」六拾「コペーキ」
一九「ルーブル」七十「コペーキ」
一六「ルーブル」
一壱「ルーブル」五十「コペーキ」
一三十「コペーキ」
一三「ルーブル」
一壱「ルーブル」
一壱「ルーブル」六拾「コペーキ」
一壱「ルーブル」
一三「ルーブル」
一二「ルーブル」三十「コペーキ」
一百八十五「ルーブル」

船中諸賄料
一船中飲料
船中上等室小使へ
同下等室小使へ
船中規則書一
「ガサニ」府迄馬車一輛雇代
「サラトーフ」ヨリ馬車一輛雇代
「ペルム」府ヨリ荷物運送人足雇代
同所駅者へ
同所大湯料
同所雇馬車代
馬車一輛買上ケ代

一拾三「ルーブル」四十三「コペーキ」
一三「ルーブル」
一弐「ルーブル」八十「コペーキ」
一四「ルーブル」
一三拾「コペーキ」
一三「ルーブル」二十「コペーキ」
一六拾「コペーキ」
一弐「ルーブル」
一六拾「コペーキ」
一三「ルーブル」
一六「ルーブル」
一二十八「ルーブル」八十「コペーキ」

「ペルム」ヨリ「セメニ」迄馬車一輛損料
馬車用塗脂
流船ヨリ荷物端ケ代
「ペルム」ニテ請待ノ旅宿召仕へ
同所荷物取扱人へ
従者旅籠料
同小使へ
「クラブ」小使へ
焼酎二礒
駅逓ヨリノ小使
「ペルム」製鉄場行馬車
「ペルム」ヲ飯並ニ弁当料

一五「ルーブル」
一二十「コペーキ」
一百六十一「ルーブル」三十五「コペーキ」
但し道法六百七十一「ヴルスト」四分一私立駅
一拾壱「ルーブル」
一拾弐「ルーブル」
一五拾「ルーブル」
一五「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一三「ルーブル」
一三「ルーブル」
一壱「ルーブル」
「ベルム」警視局ヨリ出張番卒ヘ
馬車用藁代
「ベルム」ヨリ「チェメン」迄馬六疋
「ウラスト」馬一疋ニ付四「コペーキ」ノ割
「ベルム」ヨリ「ユカ左リンブルグ」迄途中食料
「ベルム」ヨリ「ユカ左リンブルグ」迄ノ駅者ヘ
「ユカ左リンブルグ」旅篭諸掛
同小供共ヘ
「ユカ左リンブルグ」入湯料
同所ヨリ附添羅卒小頭ヘ
同附添羅卒共ヘ
馬車及荷物番卒ヘ

一壱「ルーブル」
一弐「ルーブル」六十「コペーキ」
一四「ルーブル」
一三「ルーブル」
一八「ルーブル」
一拾五「ルーブル」七拾「コペーキ」
一拾弐「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一百五拾「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一九「ルーブル」六十「コペーキ」

馬車用林買上ケ代
馬車賃代
馬車用暗代
茶買上ケ代
「ユカ左リンブルグ」ヨリ「チェメン」迄ノ駅者ヘ
「ユカ左リンブル」ヨリ「チェメン」迄食料並ニ宿料
「チェメン」詰待旅宿ノ召使共ヘ
「チェメン」羅卒共ヘ
同所駅者ヘ
馬車一輛買上ケ代
馬車修復料
薬酒買上ケ代

一四「ルーブル」五拾「コペーキ」
一弐「ルーブル」
一四「ルーブル」
一五「ルーブル」
一百三拾一「ルーブル」四十「コペーキ」
但シ道法千四百六十九「ヴェルスト」四分ノ三官立驛馬一足付一「ヴェルスト」一「コペーキ」ノ割
一四十三「ルーブル」八十「コペーキ」
一四十「ルーブル」九十「コペーキ」
一五十四「ルーブル」十三「コペーキ」
一四「ルーブル」
一三「ルーブル」
一弐「ルーブル」

駅「茶及食物買上ケ代
麻縄買上ケ代
「カンタス」ニテ茶及菓子
馬車用毛織敷物損料
「チュメン」ヨリ「トムスク」迄馬六疋
「トムスク」旅籠料
「トムスク」ニテ馬車雇料
同所ニテ入湯料
「ホテル」召使仕

一三「ルーブル」
一三「ルーブル」七十「コペーキ」
一六拾七「ルーブル」四拾一「コペーキ」

但シ道法五百五拾四「ヴェルスト」官立驛「トムスク」ヨリ「クラスノヤルスク」迄馬六疋
五「ヴェルスト」ハ一「ヴェルスト」馬一足付一「コペーキ」ノ割「ベロヤルスク」ヨリ「クラスノヤルスク」迄三百五十「ヴェルスト」間ハ一「ヴェルスト」馬一足付三「コペーキ」ノ割

一拾四「ルーブル」三十「コペーキ」
一拾六「ルーブル」六十五「コペーキ」
一六「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一三「ルーブル」五十「コペーキ」
一弐「ルーブル」八十「コペーキ」

同下女へ
洗濯料
「トムスク」ヨリ「クラスノヤルスク」迄馬六疋
「トムスク」ヨリ「クラスノヤルスク」迄人数
「トムスク」ヨリ「クラスノヤルスク」迄食料
汽船並ニ雑費
同駅者へ
番卒へ
羅卒へ
馬車修繕料
茶

一弐拾二「ルーブル」
一百八拾八「ルーブル」四拾八「コペーキ」
但し通法千〇〇四「ウヲルスト」四分ノ三官立驛ニ「ウヨルスト」馬一疋ニ付三「コペーキ」
割
一三十六「ルーブル」二十「コペーキ」
一三十六「ルーブル」六十「コペーキ」
一五「ルーブル」
一弐拾「ルーブル」
一八「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一弐拾「ルーブル」
一拾五「ルーブル」
「クラスノヤルスク」沙金掘行人賃
「クラスノヤルスク」ヨリ「イルクーツク」迄馬六疋
「クラスノヤルスク」ヨリ「イルクーツク」迄馬一疋ニ付三「コペーキ」
同駅者へ
「クラスノヤルスク」ヨリ「イルクーツク」ニ至ル食料
汽船並ニ雑費
同駅者へ
「クラスノヤルスク」請待旅宿召仕へ
馬車二輛修覆料
「ウラヂヨストック」へ電信料
「キャクタ」へ電信料
「イルクーツク」府請待旅宿「シーロ」氏
召仕二人へ
同駅者へ
同料理人へ
同下女へ
同洗濯女へ
門番羅卒二人へ
荷物及車番卒へ
羅卒並ニ歩兵五人へ
道中賄食料買上代
「バイカル」湖渡船
同所馬車二輛渡賃
同船中茶料
同水夫へ
「イルクーツク」ヨリ「キャクタ」迄馬六疋

一三「ルーブル」
一三「ルーブル」
一三「ルーブル」
一壱「ルーブル」
一七「ルーブル」
一三十「ルーブル」
一拾四「ルーブル」
一二十「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一七拾三「ルーブル」八十「コペーキ」

但し道法四百十「ウヲルスト」官立驛一「ウヲルスト」馬一疋付三「コペーキ」ノ割

一弐拾六「ルーブル」二十弐「コペーキ」

「オルター」ヨリ「キャタ」迄「食料、
汽船並ニ雑費

一弐拾四「ルーブル」三十五「コペーキ」

「キャタ」ニテ馬車雇代

一四「ルーブル」四十「コペーキ」

同駅者へ

一拾五「ルーブル」

「キャタ」請待旅宿召仕二人へ

一六「ルーブル」

同料理人及下男へ

一四「ルーブル」

同騾駅者へ

一四「ルーブル」

「キャタ」ヨリ「セレンギンスク」迄馬六疋

但し道法百三十五「ウヲルスト」四分、三官立驛一「ウヲルスト」ニ付馬一疋三「コペーキ」ノ割

一弐拾三「ルーブル」十「コペーキ」

同駅者へ

一拾三「ルーブル」

「キャタ」ヨリ「セレンギンスク」迄ノ途中荒ラ馬車顛覆ノ時夜中周旋ノ村人等へ

一六「ルーブル」

「ダシー」ヘヨーゼロ」行往返馬六疋

一三「ルーブル」

番卒へ

一六「ルーブル」

「セレンギンスク」請待旅宿召仕二人へ

一三「ルーブル」

歩兵へ

一六「ルーブル」

馬車修覆料

一十「ルーブル」

黒田参議宛電信先拂電信請取
候節ノ拂

一六「ルーブル」

黒田参議宛電信差立料

一百弐拾八「ルーブル」十四「コペーキ」

「セレンギンスク」ヨリ「チルキンスク」迄馬六疋
但し道法八百二十三「ウヲルスト」官立驛一「ウヲルスト」馬一疋付三「コペーキ」ノ割

一四十三「ルーブル」三十「コペーキ」

「チルキンスク」ヨリ「セレンギンスク」迄食料並雑費

一三十七「ルーブル」三十五「コペーキ」

同駅者へ

一弐拾二「ルーブル」七「コペーキ」
一三「ルーブル」
一四「ルーブル」五十「コペーキ」
一弐「ルーブル」五十「コペーキ」
一六「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一四「ルーブル」
一弐「ルーブル」五十「コペーキ」
但し道法八拾九「ウヨルスト」宿五駄一ヶ「ヨルスト」馬一疋ニ付三「コペーキ」割
一四「ルーブル」七十五「コペーキ」
一壱「ルーブル」五拾「コペーキ」
一六「ルーブル」
「アイチンスキ」砂金場行往返馬四疋並ニ駆者へ
「ブーチンスキ」砂金場召仕ノ者へ
同番卒「カサック」
同駆者へ
「ブルチンスク」請待旅宿「ブーチ」氏召仕へ
番卒へ
洗濯料
「ブルチンスク」ヨリ「ゴルスト」左ンスク」迄馬九疋
「ストレチンスク」ニテ飲料買上ケ代
「ストレチンスク」ヨリ「ハバロフカ」迄ノ船賃
上等一人分
同中等一人分
同荷物運送賃
「ブラゴウエシチンスク」鎮台駆者へ
同所中等茶及昼飯料
黒龍江船中上等食料
但し内九拾三「ルーブル」ハ満洲愛琿城鎮台及附属一同「饗応」ニ差出「酒」等諸入費
同中等一人
船人足賃

一拾「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一拾七「ルーブル」
一弐拾六「ルーブル」三十五「コペーキ」
一六「ルーブル」
一二「ルーブル」二十二「コペーキ」
一百七拾八「ルーブル」四十「コペーキ」
一弐拾弐「ルーブル」六十五「コペーキ」
一弐拾六「ルーブル」

棒砂糖一本
黒流船迄荷物運送人足へ
「ストレチンスク」ニテ飲料買上ケ代
「ストレチンスク」ヨリ「ハバロフカ」迄ノ船賃
上等一人分
同中等一人分
同荷物運送賃
「ブラゴウエシチンスク」鎮台駆者へ
同所中等茶及昼飯料
黒龍江船中上等食料
船人足賃

一三「ルーブル」
一八「ルーブル」
一弐拾弐「ルーブル」五十五「コペーキ」
一拾三「ルーブル」三十九「コペーキ」
一弐拾九「ルーブル」二十六「コペーキ」
一拾八「ルーブル」
一四「ルーブル」
一二「ルーブル」
一九拾壱「ルーブル」十「コペーキ」
一四拾壱「ルーブル」四十「コペーキ」
一拾壱「ルーブル」
一六拾二「ルーブル」

同料理人へ
同小使へ
「パロフカ」ヨリ「カーメンヌイパロフ」迄汽船
一等壱人分
同中等壱人分
同荷物運送賃
同水夫へ
同小使へ
同料理人へ
同船中上下食料諸掛
「ペンカ」湖ヨリ「ウラジオストク」迄馬
九疋
雇人足賃
「ウラヂオストック」ニテ飯銭食料

一拾「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一弐「ルーブル」
一壱「ルーブル」
一拾八「ルーブル」
一拾「ルーブル」五拾「コペーキ」

同所徒者賄料
同小使へ
同所ニテ荷車一輛
同所ニテ馬車賃代
「サンパニ」酒
「ウラヂオストック」ヨリ「ペテルブルグ」へ
電信料

惣計三千弐百八拾七「ルーブル」大拾壱「コペーキ」

一月二日浦塩港出帆同四日夜北海道小樽港着ス同十九日箱
館出帆同二十一日夜横浜入港同夜東京着迄之諸入費左之通

一金拾円
一金壹円
一金壹円九十銭二厘五毛
一金六円十銭
一金七円五拾銭
一金三円
一金五円
一金五拾銭
一金四拾銭
一金弐拾三銭六厘
一金拾九銭七厘
一金四拾七銭二厘

函館丸水夫へ
小樽港旅籠料
同所荷物端ヶ並人足代
函館旅籠料
札幌迄同中諸所ニ附添ヒ開拓使勧農課馬丁
同断
札幌請待旅宿開拓使小使共
同下等旅籠料
通船所へ拂
小樽港ヨリ銭函駅迄馬一疋
同人足一人
銭函駅ヨリ小樽港迄馬二疋

一金弐拾円
一金拾五円
一金七拾五銭
一金三拾銭
一金壹円

ノ金七拾参圓参拾六銭七厘五毛

小樽港ヨリ横浜港迄汽船上等一人
同中等壱人
上等汽車壱人分 但し横浜ヨリ東京迄
下等汽車
神奈川縣馬車駄者へ

十二月十三日之御細書今九月十五日落手いたし候。當地「ペテルブルグ」ハ殆ト東京位の広き城府ニて頗る繁
華なる事も不自由無之、夏分ハ格別賑敷事無之候へども當節ハ追々すぎやかに相成、冬分
ハ一番賑敷趣ニ候。此の頃の時候ハ日本十月下旬位ニてとかく雨天多く候。當表ニ罷
在ル日本人ハ公使館附属花房書記官始め外三人手前共通計(つがふ)五人一所ニ住
居ハ勿論手前ニ居る間も四十畳許り、間一ト間外ニ寝所十五畳程、大金を継(つぎ)の間ニ住
まゐハ是も六畳許り、役所も五十畳もあり、客座敷二間(フタマ)壱ツも四十畳壱ツも十
二、三畳、其外三間横ニ五ツ間許も部屋有之。一ヶ年借家の價六千五百両
許りなれハ是ハ官費ニ分ちて、門番料理人別當小使ひ等兼せて十人(是ハ手前費)、外ニ馬二疋借置
候、この價別當とも合せて月ニ七十両(是ハ自費)もあり。牧公使館ハ「ネワ」と申河岸ニ
て此の河両國の二倍の大さ有之、無數の蒸汽船往来いたし、居河向ニ景
色林、一目ニ見渡し好き景色なれハ公使館ニも風呂有之候得共、街(マチ)ニも餘程
美なる湯有之時々参りハ尤も上等の湯屋も四両許りにて中等ハ湯も二両一分
ぐらゐなれハ故ニ一人にて参る事も餘り貴(タカ)き故大金成も其外の者供を連行きなれハ
蒸風呂、湯瀧、水瀧、通例ノ風呂皆これへ有之、間数も二三ヶ所有りして
實ニ他國ニなき湯屋ニ候(以下略)

九月廿日夜認

武揚

鈴木御姉様

(明治七年か)

明治十一年四月五日附宅状(魯都ヨリ留守宅へ)ノ一節

近頃「ロシヤ」と「イギリス」ニ間柄餘程さしもつれ、私共當ニ寄かて戦ニ至りすかしと世間の
取沙汰(此次二三字虫喰ヒ不明)手前も此義を談合兼候よりや戦ニ私共ハも今年も是非
帰朝可致存付けして(此処も亦二三字虫喰ニテ不明)と私間敷ハ只々猶豫候を英魯二国
開戦ニ至りハ「シベリヤ」通ニ帰国を出来不申ニ一事ニ有之ハ其ノ故ハ「ウラヂオストック」
港を英の軍艦ニて閉ちすれハ其内港より日本其外への通路も全く相絶へすれハなり
其の代り印度又ハ「アメリカ」を経て帰朝する時も時日もかゝり不申、数も手前を居ニ寄
中亜細亜(チウアジヤ)を経て「キヤクタ」(支那と魯の境)より大沙漠及所謂萬里ニ長城を越へ支那北京
へ至り夫ゟ帰朝する事も出来知れ不申ハこの道も「シベリヤ」よりも捷路ニ候得共

在魯公使館創立當時在勤員

（大正六年三月廿七日岡野義也氏人書キノ分ヨリ）

海軍中將兼特命全權公使　榎本武揚　靜岡縣士
外務大臣兼二等書記官　花房義質　岡山縣士
魯語通辨　市川文吉　東京府士
外務二等書記生　内藤忠順　靜岡縣士
留學生　寺見機一　岡山縣士
仝　西徳次郎　鹿兒島縣士

西伯利亜日記 寫 貳 卷

292.93-E76s-(s)
1200600587809
集約済 2冊

292.93
E76A
(1)

292.13
E 76 s
W